

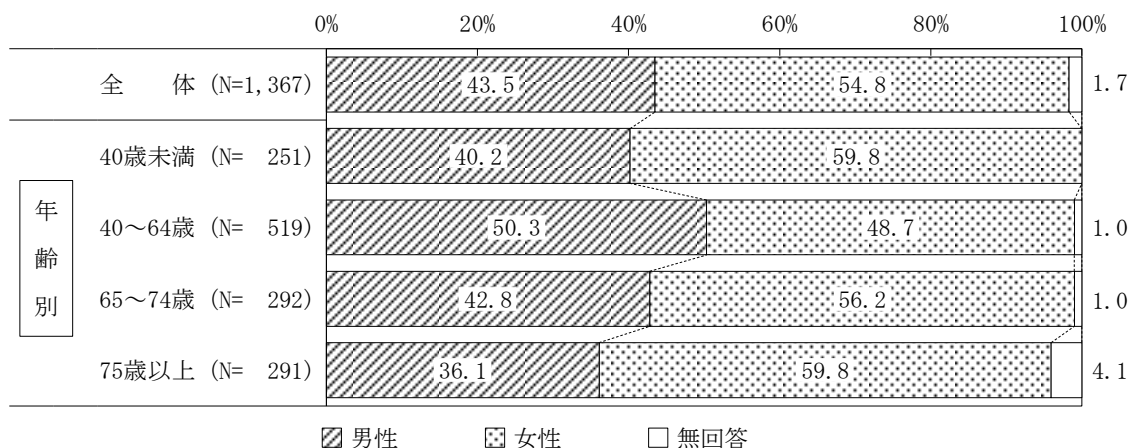
第 1 調查結果

1 基本属性

(1) 性別・年齢別

回答者の性別は、「男性」が43.5%、「女性」が54.8%となっています。年齢別にみると、40～64歳は「男性」がやや高く、その他の年齢層はすべて「女性」が高くなっています。

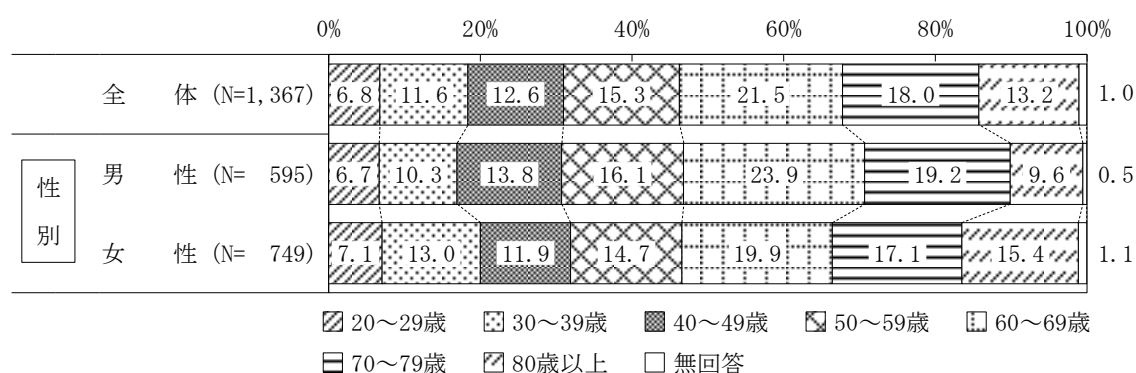
図表1 性別



回答者の年齢は、「60～69歳」が21.5%と最も高く、次いで「70～79歳」(18.0%)となっています。これに「80歳以上」を加えた＜60歳以上＞は52.7%を占めています。

性別にみると、男女ともに「60～69歳」「70～79歳」が高く、男性は女性に比べて「60～69歳」が高く、女性は男性に比べて「80歳以上」が高くなっています。

図表2 年齢別

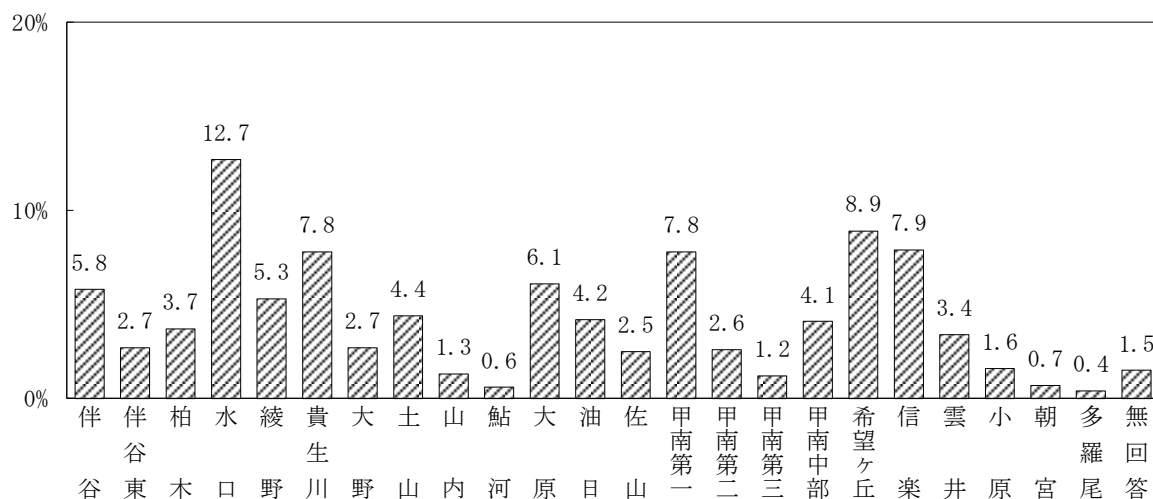


(2) 居住地区

回答者の居住地区を小学校区別にみると、「水口」が12.7%と最も高くなっています。次いで「希望ヶ丘」「信楽」「甲南第一」「貴生川」「大原」「伴谷」「綾野」の順となっており、その他の小学校区は5%以下です。

図表3 小学校区

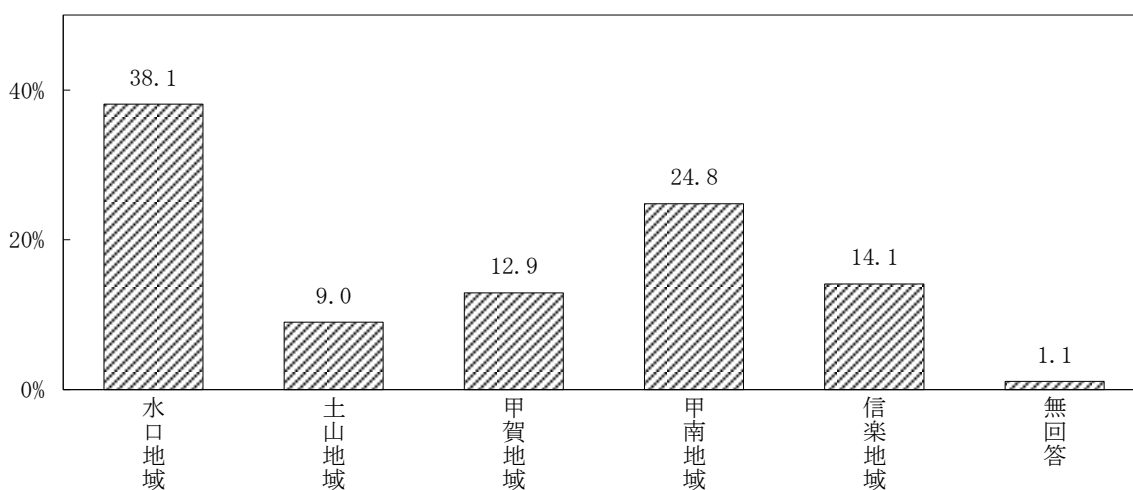
N=1,367



回答者の居住地域（5地域）別の割合は次のとおりです。

図表4 地域別

N=1,367



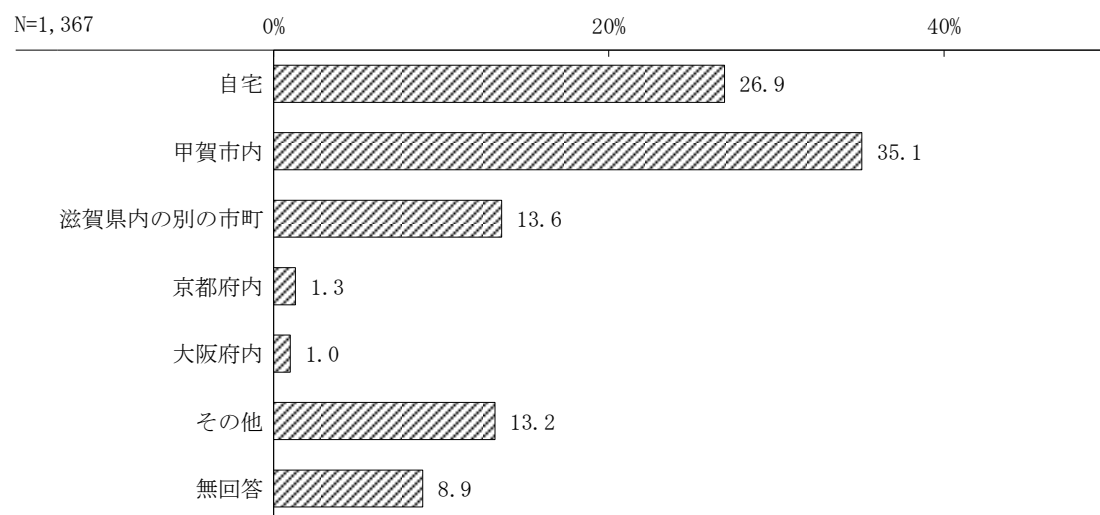
(3) 勤務・通学先

主な勤務・通学先については、「甲賀市内」が最も高く35.1%を占めています。次いで「自宅」(26.9%)、「滋賀県内の別の市町」(13.6%)の順となっています。

就労・就学していない人は「その他」もしくは「自宅」と回答されたか、または「無回答」であったと推察されます。

「その他」として、「無職(102件)」「家事・主婦(14件)」「三重県内(10件)」などが記載されていました。

図表5 勤務・通学先



(4) 家族構成

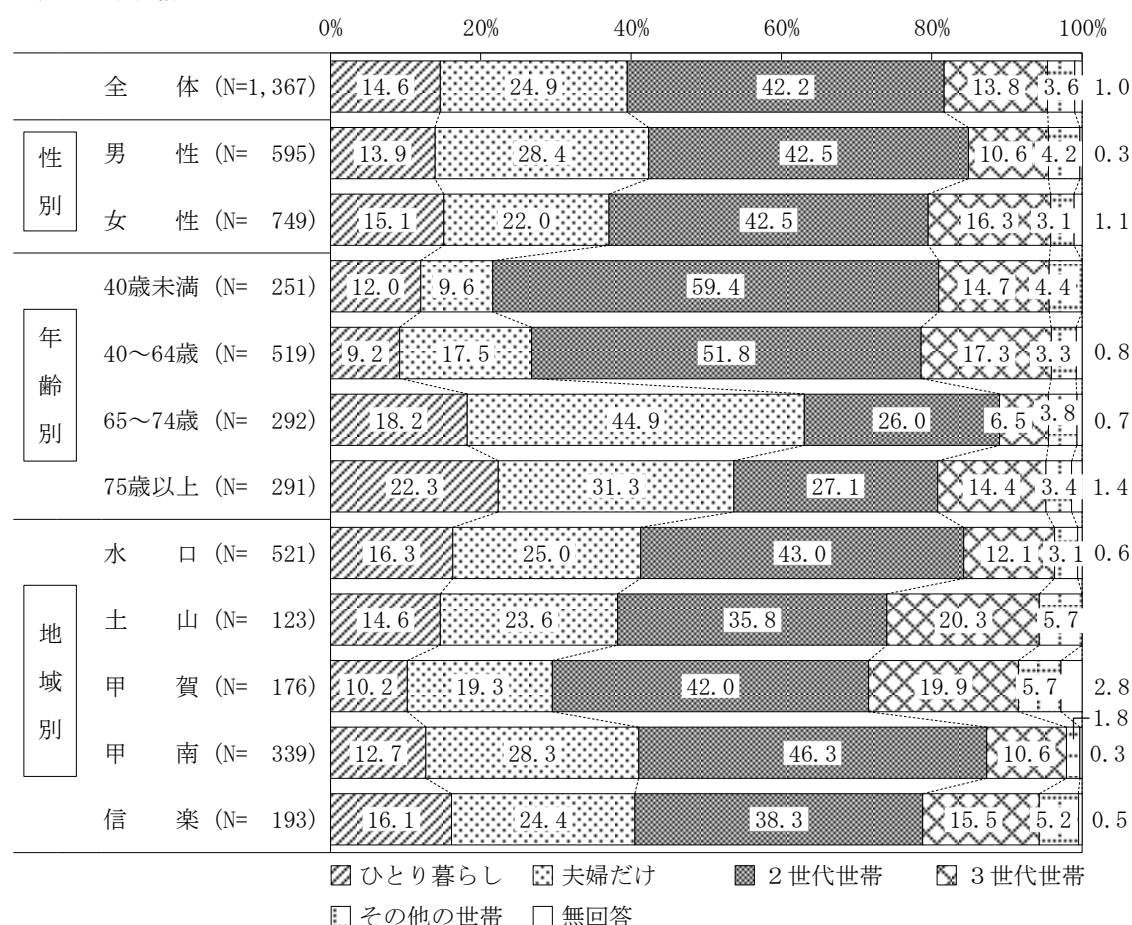
家族構成は、親と子の「2世代世帯」が42.2%を占めています。次いで「夫婦だけ」が24.9%、「ひとり暮らし」が、14.6%となっています。

年齢別にみると、40歳未満、40～64歳は「2世代世帯」が50%以上を占め、65～74歳、75歳以上は「夫婦だけ」が最も高くなっています。

地域別にみると、いずれの地域も「2世代世帯」が最も高く、甲賀以外は「夫婦だけ」が2番目に高くなっています。甲賀は祖父母と親と子の「3世代世帯」が2番目に高くなっています。5地域の中で「2世代世帯」が最も高いのは甲南、「夫婦だけ」が最も高いのも甲南です。「ひとり暮らし」は水口、信楽が16%台と高く、甲賀が10.2%と最も低くなっています。「3世代世帯」は土山、甲賀が20%前後と比較的高く、甲南が10.6%と最も低くなっています。

「その他」として、「兄弟姉妹」「4世代世帯」「祖父母と孫（家族）」「施設入所」などが複数記載されていました。

図表 6 家族構成

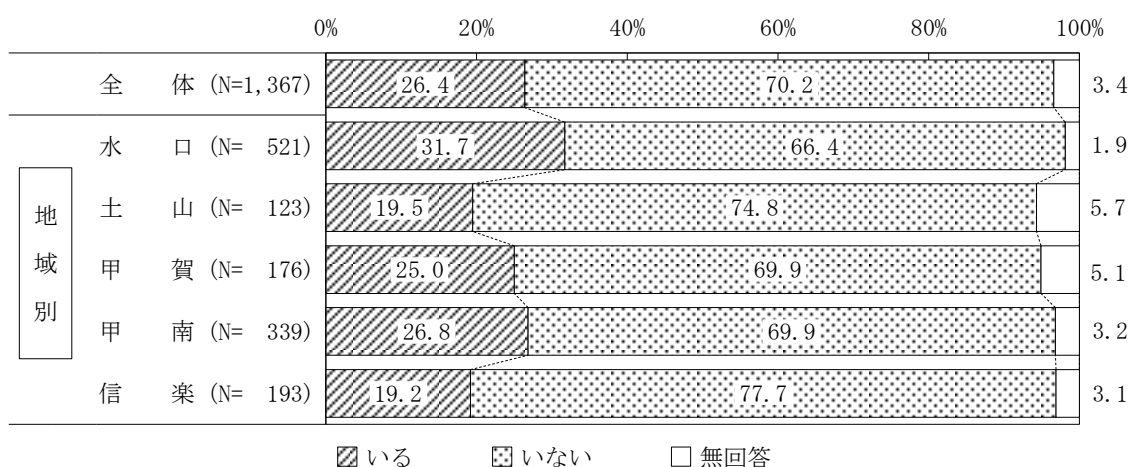


(5) 同居家族に子どもがいるか

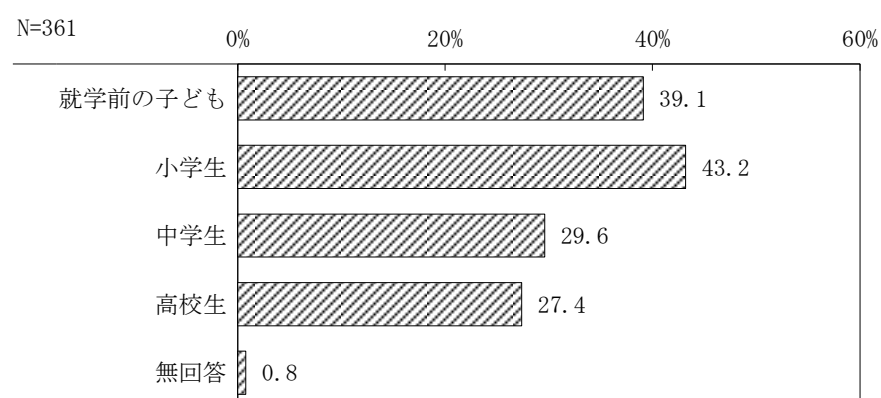
同居している家族の中に、高校生までの子どもが「いる」世帯は26.4%です。

地域別にみると、「いる」は水口が31.7%と最も高く、次いで甲南、甲賀の順となっています。土山、信楽は20%を下回っています。

図表 7 同居家族に高校生までの子どもがいるか



図表 8 同居している子ども（複数回答）

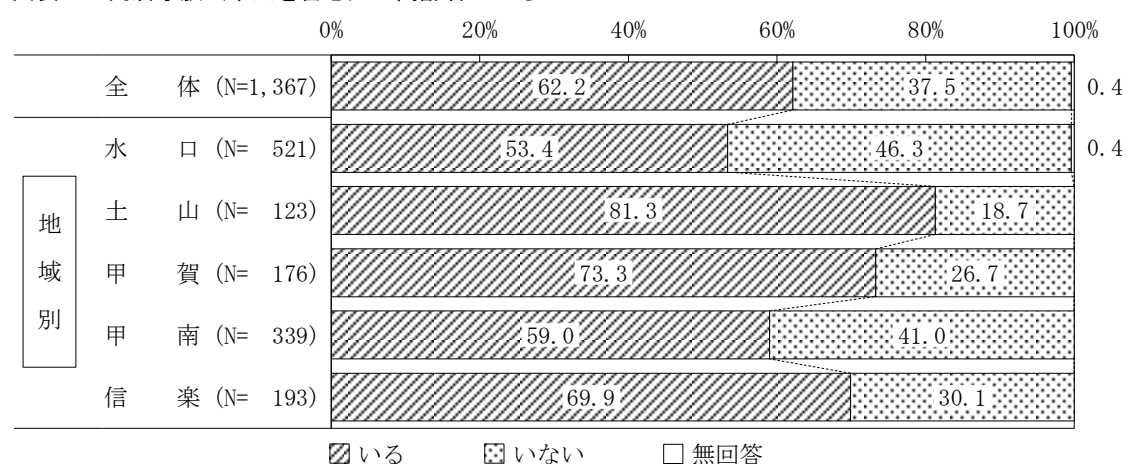


(6) 同居家族に高齢者がいるか

同居している家族の中に65歳以上の高齢者が「いる」世帯は62.2%です。

地域別にみると、土山が81.3%と最も高く、次いで甲賀、信楽の順となっています。水口、甲南は60%を下回っています。

図表 9 同居家族（本人を含む）に高齢者がいるか

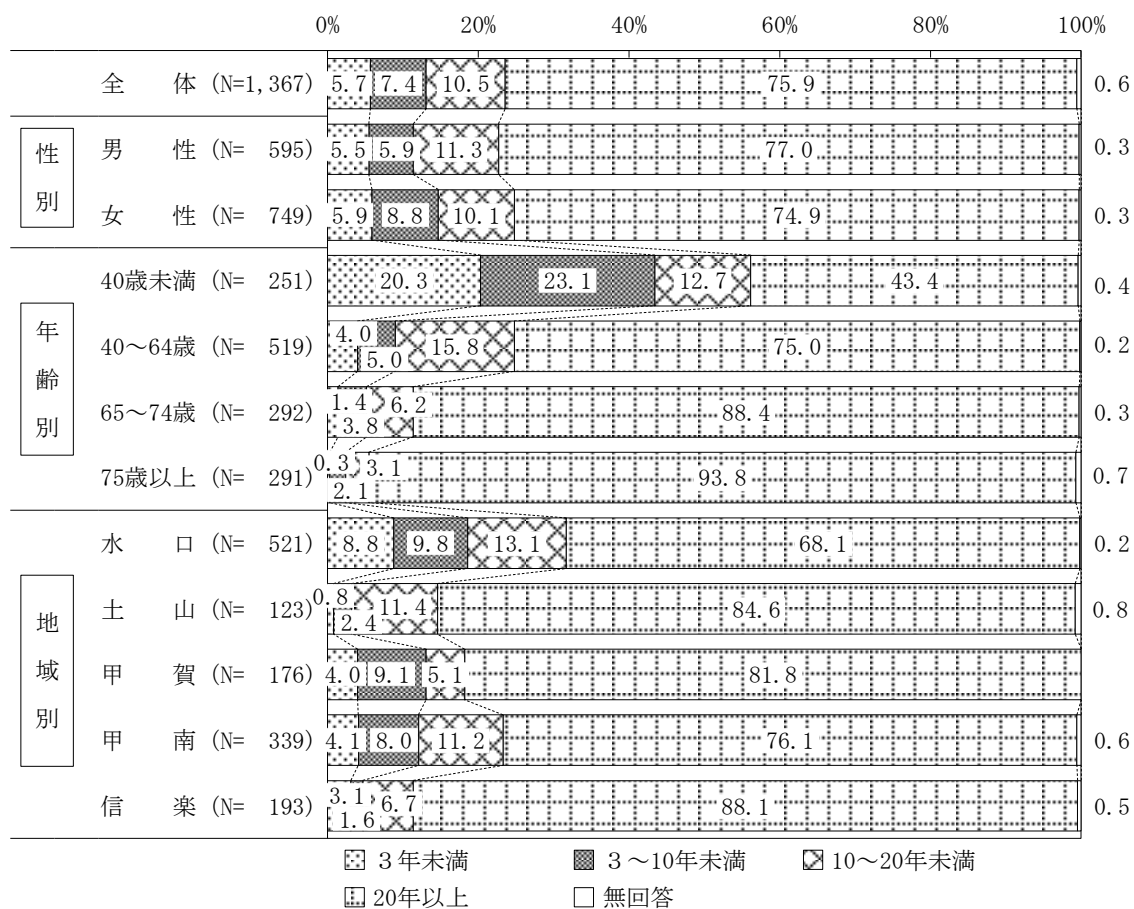


(7) 居住年数

「あなたは、甲賀市（旧町を含む）にお住まいになられて通算何年になりますか」という設問に対しては、「20年以上」が75.9%を占めています。

「20年以上」は、性別では男性が女性より2.1ポイント高く、年齢別では年齢が上がるほど高くなり、75歳以上では93.8%を占めています。地域別にみると、信楽が88.1%と最も高く、土山、甲賀も80%以上です。最も低いのは水口で70%を下回っています。

図表10 居住年数



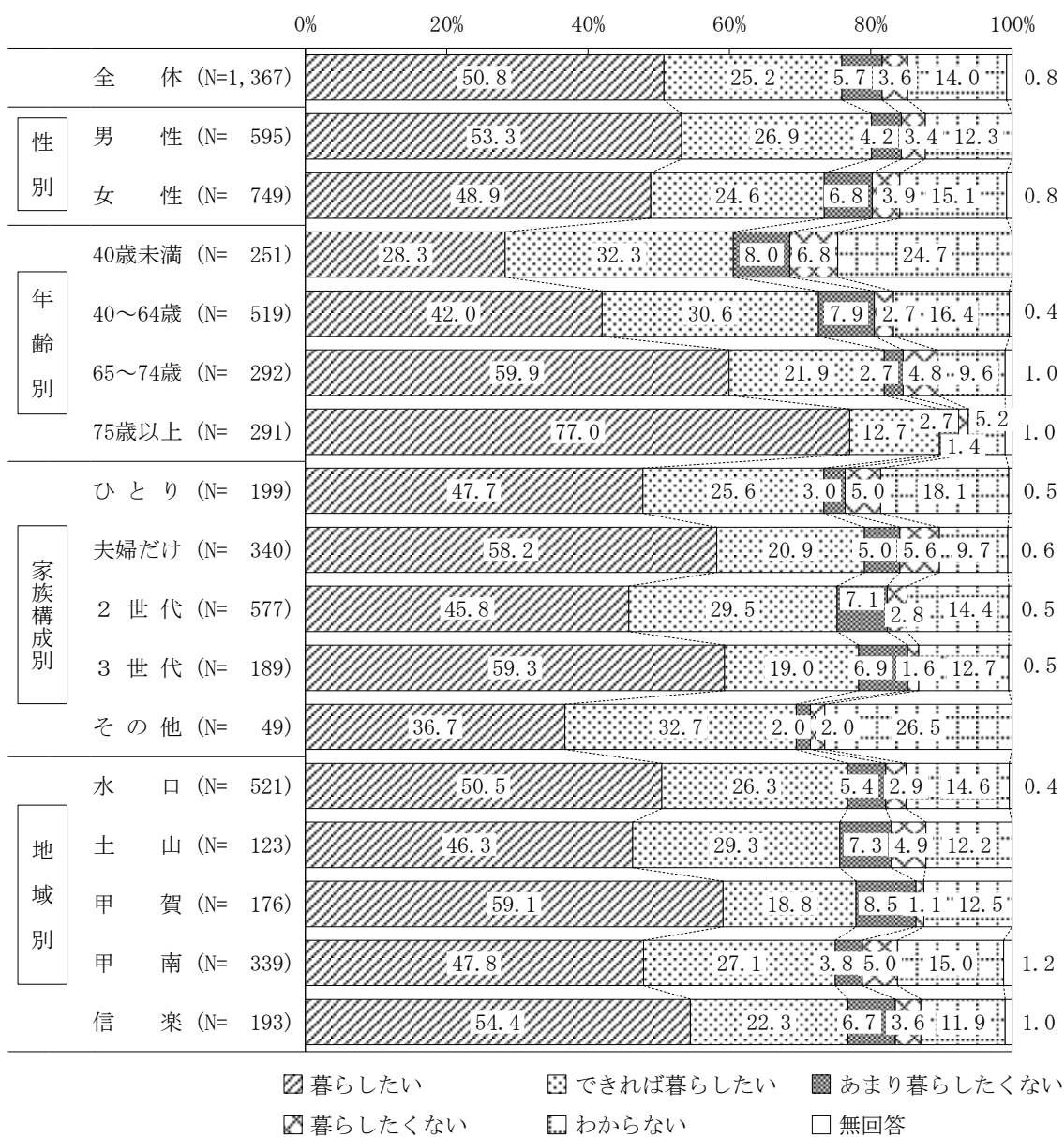
(8) 現在の地域で暮らしていきたいと思うか

将来も現在の地域で暮らしていきたいと思うかをたずねたところ、50.8%が「暮らしたい」と答えています。これに「できれば暮らしたい」を加えた＜暮らしたい＞は76.0%です。

「あまり暮らしたくない」「暮らしたくない」を合計した＜暮らしたくない＞は9.3%となっています。

＜暮らしたい＞が高いのは、性別では男性、年齢別では年齢が上がるほど高くなり、75歳以上では89.7%となっています。家族構成別、地域別による大きな差はみられません。

図表11 現在の地域で暮らしていきたいと思うか



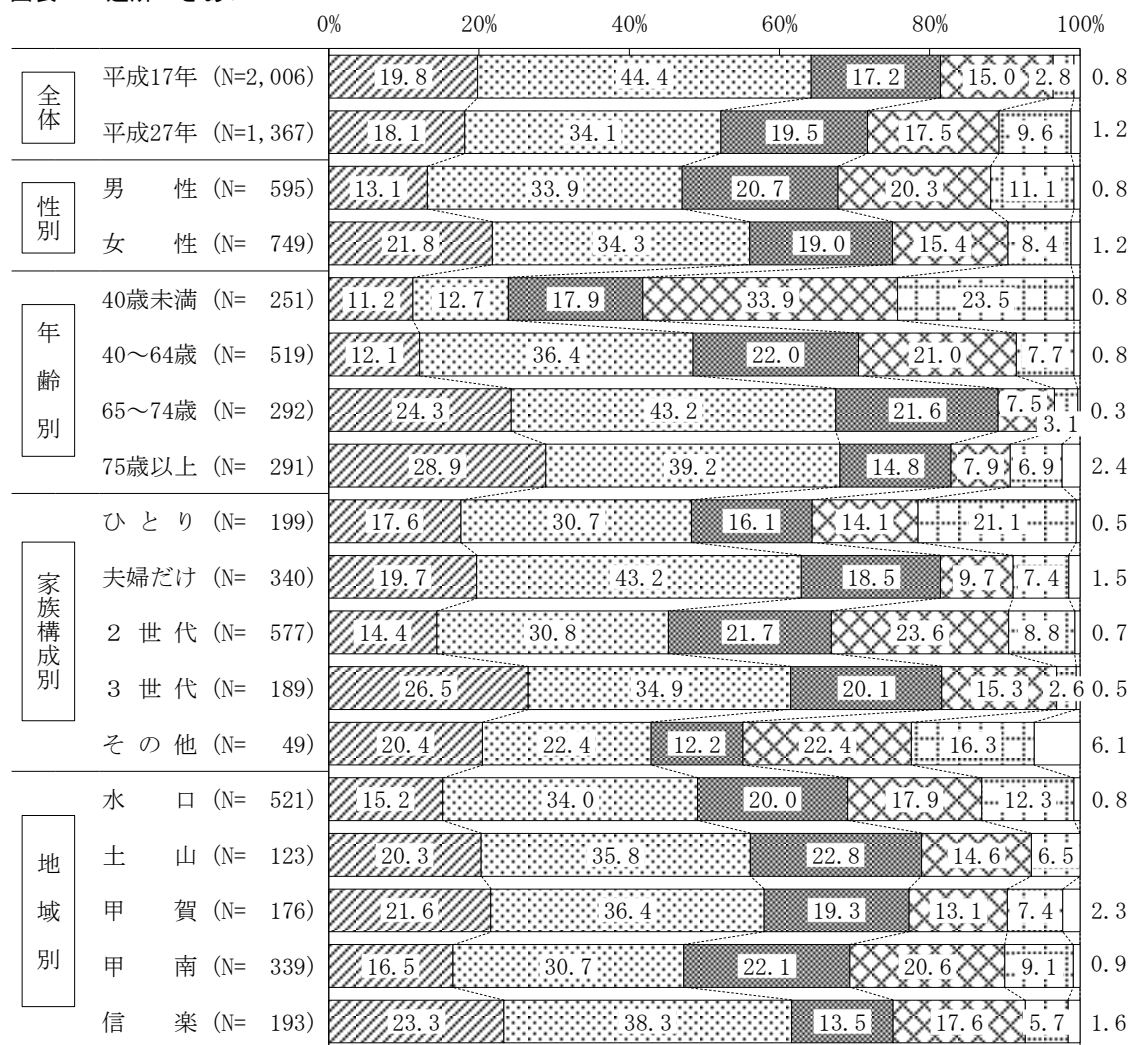
2 暮らしの様子や地域とのかかわり

(1) 近所づきあい

「あなたは、ご近所で最も親しくしている人と、日頃どの程度のつきあいをされていますか」という設問に対しては、「簡単な頼みごとや、土産物を分け合うつきあい」が34.1%と最も高くなっています。これに「困りごとの相談や、助け合うようなつきあい」を加えたものを＜親密なつきあい＞とすると、52.2%となります。「ほとんどつきあいはない」は9.6%です。平成17年調査と比べると、＜親密なつきあい＞は12.0ポイント低くなり、「ほとんどつきあいはない」が6.8ポイント高くなっています。

＜親密なつきあい＞が高いのは、性別では女性、年齢別では65歳以上が70%近くを占めています。家族構成別では夫婦だけ、3世代世帯が高く、地域別では信楽が高くなっています。

図表12 近所づきあい



- 困りごとの相談や、助け合うようなつきあい
- ▨ 簡単な頼みごとや、土産物を分け合うつきあい
- 立ち話をする程度のつきあい
- ▨ 挨拶をする程度のつきあい
- ほとんどつきあいはない
- 無回答

(2) 相談相手

生活の困りごとについて相談する相手としては、「家族・親戚」が83.9%と最も高く、「知人・友人・職場の同僚」も40%台の比較的高い割合です。「相談する人がいない」は2.8%と低いものの、人数としては38人あります。平成17年調査と比べると、ほぼ同様の傾向となっていますが、全般的に平成27年の割合が低くなっています。高くなっているのは「民生委員・児童委員」「医師・保健師・ホームヘルパー等の専門職」などです（図表13）。

属性別にみると、いずれも「家族・親戚」が最も高くなっています。性別では、「家族・親戚」「知人・友人・職場の同僚」「近所の人」は男性より女性が高く、「区・自治会等の地域の役員」「相談する人がいない」は男性が高くなっています。

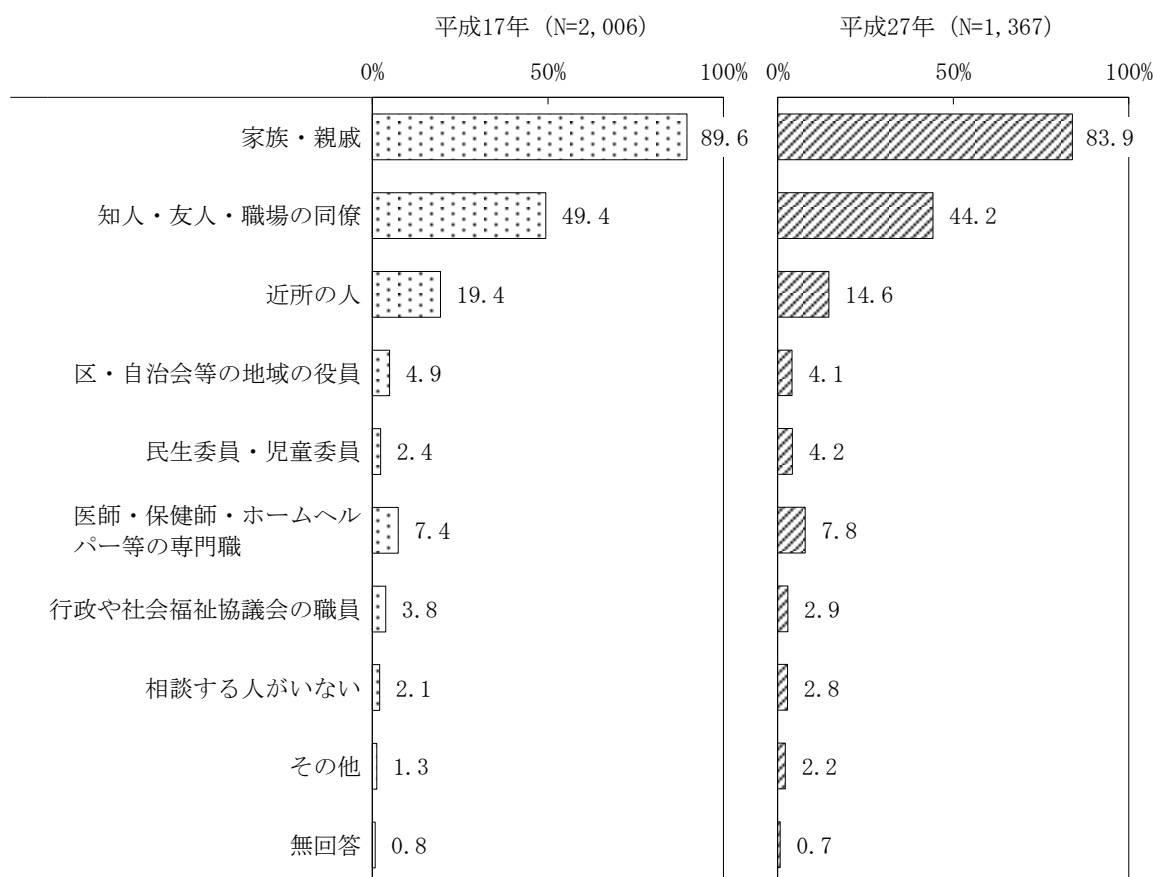
年齢別にみると、年齢が上がるにつれて多くの項目が高くなる傾向にありますが、「知人・友人・職場の同僚」は低くなります。

家族構成別にみると、他の世帯に比べてひとり暮らしの「近所の人」「民生委員・児童委員」「相談する人がいない」が高くなっています。

地域別にみると、土山の「医師・保健師・ホームヘルパー等の専門職」が他の地域に比べて高いことが特徴としてあげられます（図表14）。

「その他」として、図表15の内容が記載されていました。

図表13 相談相手（複数回答）



図表14 相談相手（属性別、複数回答）

単位：Nは人、他は%

区 分		N	家族・親戚	僚 知人・友人・職場の同	近所の人	役員	区・自治会等の地域の	民生委員・児童委員	医師・保健師・ホームヘルパー等の専門職	行政や社会福祉協議会の職員	相談する人がいない	その他	無回答
性別	男 性	595	<u>81.0</u>	41.5	12.1	<u>6.1</u>	4.4	7.9	3.0	<u>4.5</u>	3.4	0.3	
	女 性	749	<u>86.5</u>	<u>47.3</u>	<u>16.8</u>	2.5	4.1	7.6	2.7	1.5	1.3	0.5	
年 齢 別	40歳未満	251	<u>82.9</u>	72.5	7.2	0.4	－	2.4	1.6	2.8	0.8	－	
	40～64歳	519	<u>82.5</u>	54.3	12.3	5.0	2.7	5.6	1.9	3.3	2.5	0.4	
	65～74歳	292	<u>84.9</u>	30.1	16.8	3.8	4.8	9.6	4.5	3.1	2.4	0.7	
	75歳以上	291	<u>87.6</u>	17.9	23.0	6.2	10.0	14.4	4.1	1.7	2.4	0.7	
家族構成別	ひ と り	199	<u>66.3</u>	35.2	<u>20.1</u>	3.5	<u>10.1</u>	7.5	4.0	<u>6.5</u>	3.5	0.5	
	夫婦だけ	340	<u>90.0</u>	32.9	15.0	4.1	4.1	7.1	2.1	2.4	2.1	－	
	2 世 代	577	<u>85.1</u>	51.0	12.1	4.0	2.9	7.3	2.9	2.3	1.9	0.5	
	3 世 代	189	<u>91.0</u>	57.1	17.5	6.3	3.2	8.5	2.1	1.1	－	0.5	
	そ の 他	49	<u>77.6</u>	36.7	12.2	－	－	16.3	6.1	4.1	8.2	－	
地 域 別	水 口	521	<u>83.7</u>	48.6	12.9	2.9	2.5	7.1	2.7	3.6	1.7	0.6	
	土 山	123	<u>83.7</u>	35.0	16.3	3.3	4.9	<u>11.4</u>	4.1	1.6	3.3	－	
	甲 賀	176	<u>87.5</u>	39.2	18.8	6.8	8.0	8.0	5.1	3.4	0.6	0.6	
	甲 南	339	<u>85.8</u>	46.9	15.6	5.0	5.0	7.4	2.1	1.5	2.4	0.3	
	信 楽	193	<u>80.8</u>	39.4	12.4	4.1	3.6	7.3	2.1	2.6	3.6	0.5	

図表15 相談相手（その他）

・ 上司 2 ・ インターネット ・ 地域生活支援センターのグループホームキーパー ・ 支援センター職員・世話人 ・ 警察 ・ 弁護士	・ 民間企業の電話相談（医療健康） ・ 困りごとの各方面の専門のかた ・ 困りごとがない 7 ・ 相談しない 2 ・ 困りごとの内容にもよる
--	--

等

(3) 福祉に関する情報の入手先

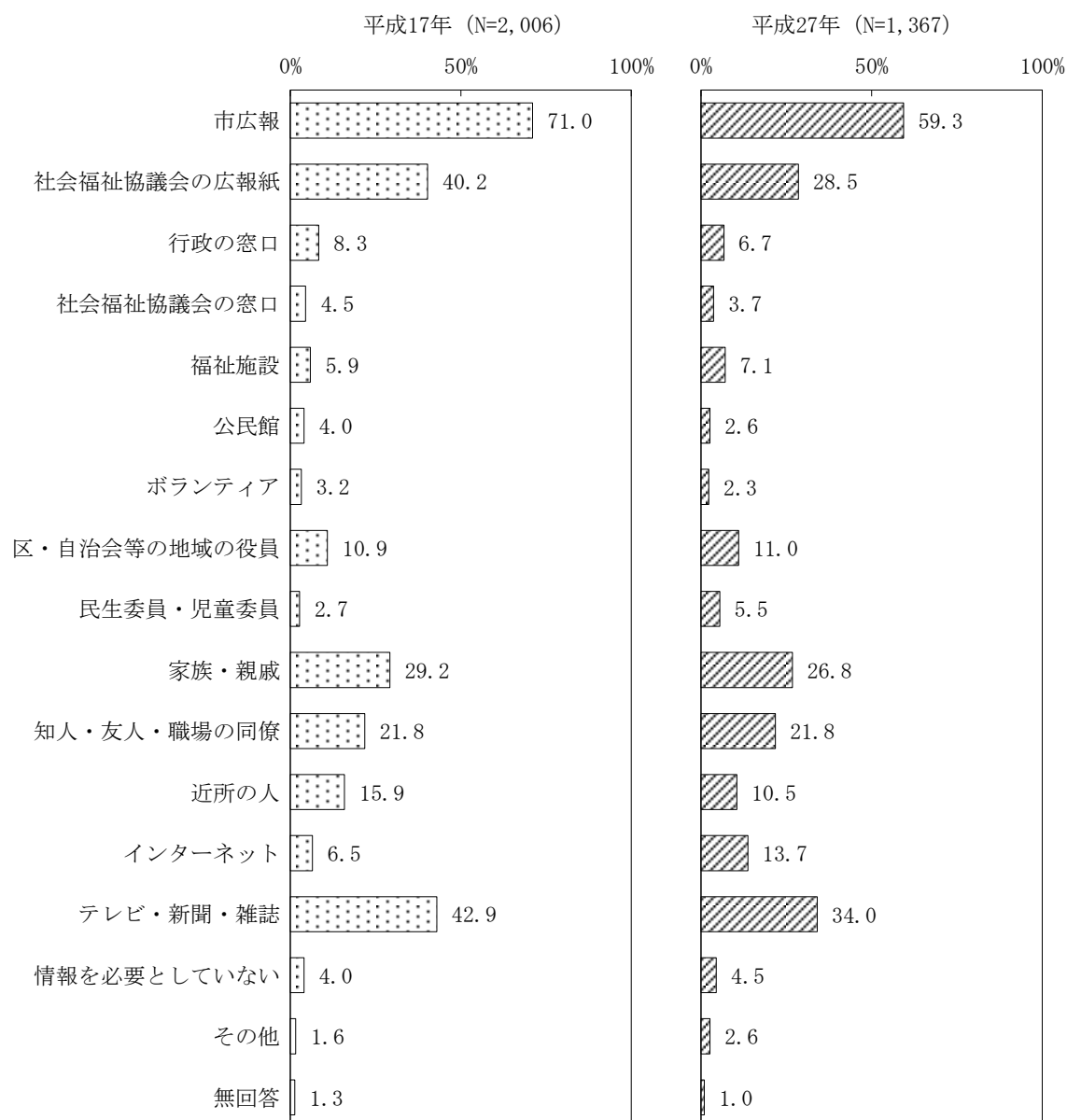
福祉に関する情報の入手先としては、「市広報」が59.3%と最も高くなっています。「テレビ・新聞・雑誌」「社会福祉協議会の広報紙」「家族・親戚」「知人・友人・職場の同僚」も20%以上の比較的高い割合です。平成17年調査に比べると、傾向は同じですが、「市広報」「社会福祉協議会の広報紙」「テレビ・新聞・雑誌」は10ポイント前後低下しています。高くなっているのは「インターネット」「福祉施設」「民生委員・児童委員」などです(図表16)。

属性別にみると、いずれも「市広報」が最も高くなっています。

性別では、全般的に男性より女性の割合が高くなっています。男性が女性より高いのは「区・自治会等の地域の役員」「インターネット」などです。

年齢別では、40歳未満は他の年齢層に比べて全般的に割合が低く、「インターネット」「情

図表16 福祉に関する情報の入手先（複数回答）



報を必要としていない」が高いこと、65～74歳の「市広報」「社会福祉協議会の広報紙」「テレビ・新聞・雑誌」が高いこと、75歳以上の「福祉施設」「民生委員・児童委員」「家族・親戚」「近所の人」が高いことなどが特徴としてあげられます。

家族構成別にみると、ひとり暮らしの「民生委員・児童委員」、夫婦だけの「市広報」「社会福祉協議会の広報紙」「テレビ・新聞・雑誌」、3世代の「行政の窓口」「家族・親戚」が他の世帯より高くなっています。

地域別では、土山の「福祉施設」、甲賀の「社会福祉協議会の広報紙」、甲南の「市広報」「テレビ・新聞・雑誌」が他の地域より高くなっています（図表17）。

「その他」として、図表18の内容が記載されていました。

図表17 福祉に関する情報の入手先（属性別、複数回答）

単位：Nは人、他は%

区 分		N	市 広 報	社 会 福 祉 協 議 会 の 広 報 紙	行 政 の 窓 口	社 会 福 祉 協 議 会 の 窓 口	福 祉 施 設	公 民 館	ボ ラ ン テ ィ ア	区・自治会等の地域の役員	民 生 委 員 ・ 児 童 委 員	家 族 ・ 親 戚	知 人 ・ 友 人 ・ 職 場 の 同 僚	近 所 の 人	イ ン タ ー ネ ッ ト	テ レ ビ ・ 新 聞 ・ 雑 誌	情 報 を 必 要 と し て い な い	そ の 他	無 回 答
性 別	男 性	595	<u>57.5</u>	29.4	6.6	4.0	5.2	2.7	2.0	<u>13.4</u>	5.7	25.9	17.5	8.1	<u>16.0</u>	33.6	6.1	1.8	0.5
	女 性	749	<u>60.7</u>	28.2	6.8	3.3	8.5	2.7	2.7	8.8	5.5	27.4	25.2	12.4	12.1	34.2	3.5	3.2	0.9
年 齢 別	40歳未満	251	<u>40.6</u>	8.0	5.2	1.2	4.0	1.6	0.4	0.4	0.4	30.7	25.9	6.0	<u>26.3</u>	27.1	<u>12.0</u>	4.8	0.4
	40～64歳	519	<u>59.3</u>	26.6	6.7	2.3	7.1	1.7	1.5	10.0	3.1	22.7	24.9	7.3	19.3	28.3	4.4	2.7	0.8
	65～74歳	292	<u>76.0</u>	<u>45.9</u>	7.5	5.5	6.2	4.1	4.8	15.8	6.5	17.8	19.5	12.7	5.5	<u>44.2</u>	1.4	1.0	0.3
	75歳以上	291	<u>59.8</u>	32.6	6.9	6.5	<u>10.7</u>	3.8	2.7	17.5	<u>12.7</u>	<u>39.5</u>	15.8	<u>17.9</u>	1.7	40.9	1.4	1.7	1.4
家 族 構 成 別	ひ と り	199	<u>47.7</u>	21.1	8.0	5.5	6.0	2.0	2.0	9.0	<u>10.1</u>	19.1	16.6	11.6	9.5	31.7	9.5	3.5	1.0
	夫 婦 だ け	340	<u>69.7</u>	<u>36.5</u>	4.7	2.6	7.1	4.4	3.5	14.1	6.2	22.9	16.8	11.5	9.7	<u>41.2</u>	3.2	2.1	－
	2 世 代	577	<u>58.4</u>	25.3	5.2	2.6	6.1	1.9	1.6	9.2	3.8	29.5	23.2	9.4	16.6	31.0	3.5	1.9	1.0
	3 世 代	189	<u>60.8</u>	33.3	<u>13.2</u>	6.3	10.6	2.6	2.6	15.3	5.8	<u>35.4</u>	30.2	11.6	17.5	34.4	3.2	3.7	0.5
	そ の 他	49	<u>42.9</u>	20.4	6.1	6.1	8.2	－	4.1	2.0	－	24.5	32.7	10.2	12.2	32.7	12.2	6.1	2.0
地 域 別	水 口	521	<u>57.8</u>	24.6	6.5	2.9	5.4	3.3	1.3	7.3	3.5	28.2	23.8	9.6	15.4	32.6	5.4	3.3	1.2
	土 山	123	<u>60.2</u>	34.1	8.9	5.7	<u>13.0</u>	2.4	3.3	18.7	4.9	23.6	19.5	7.3	15.4	35.8	3.3	0.8	0.8
	甲 賀	176	<u>56.8</u>	<u>38.6</u>	7.4	5.7	10.8	2.3	4.0	18.2	8.5	26.1	16.5	10.2	15.9	31.8	3.4	2.8	1.1
	甲 南	339	<u>66.1</u>	28.0	5.9	3.2	5.9	2.1	2.4	12.1	7.7	27.1	20.9	12.7	12.4	<u>40.1</u>	5.0	1.5	－
	信 楽	193	<u>56.5</u>	28.5	6.2	3.1	7.3	2.6	2.1	8.3	4.1	25.4	25.4	10.9	9.3	29.0	3.1	3.6	0.5

図表18 福祉に関する情報の入手先（その他）

・ ケアマネジャー 3 ・ 地域生活支援センター 2 ・ 子育て支援センター 2 ・ ヘルパー ・ 市職員	・ 社協の職員 ・ 障がい児親の会 ・ 大家 ・ 医者 ・ 通院仲間	・ 回覧板 ・ 親同士の集まり ・ 得ているかどうか分からない ・ 得ていない 9
---	--	--

等

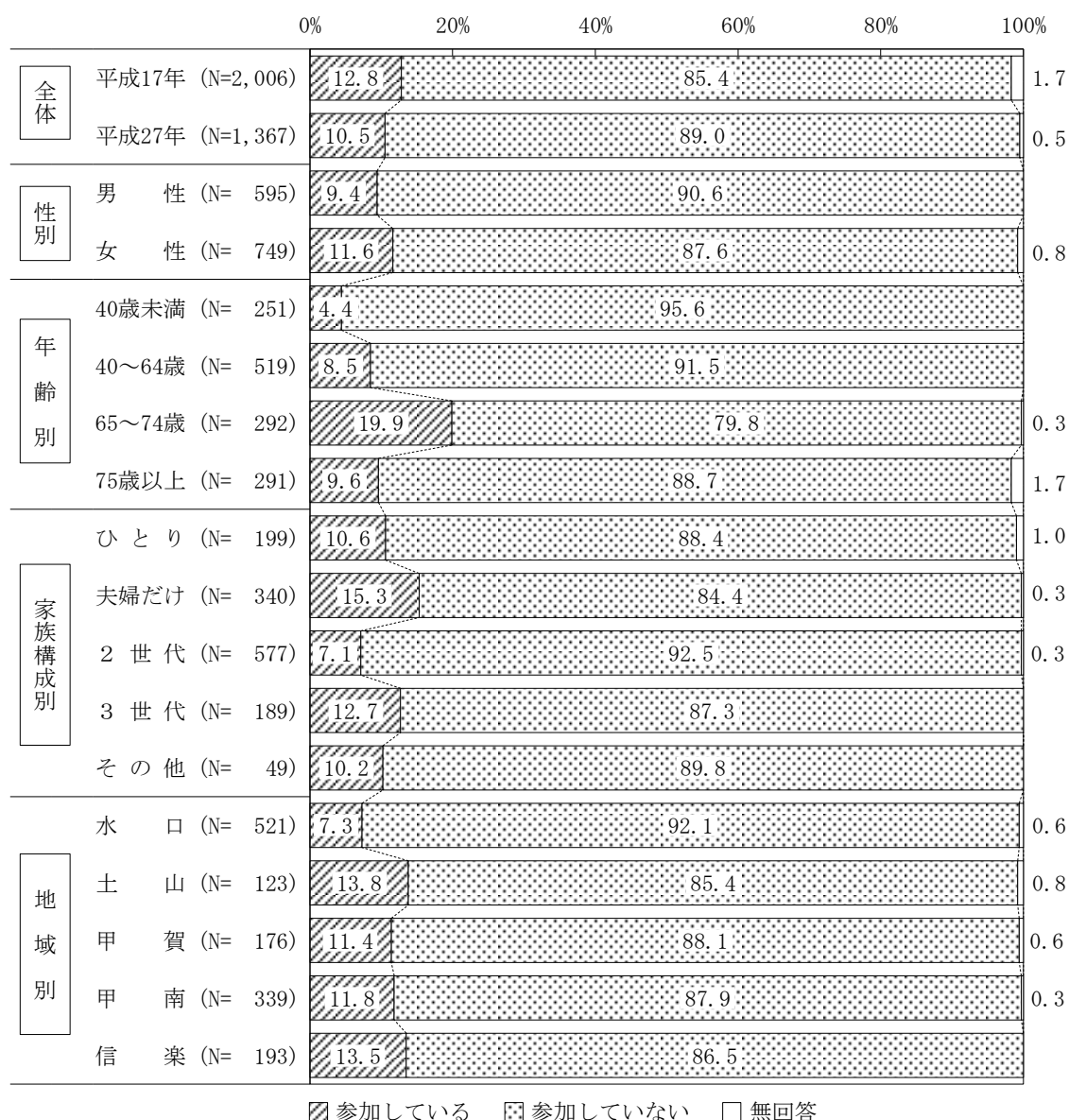
(4) ボランティア活動の参加状況

図表19はボランティア活動の参加状況をたずねた結果です。ここでいうボランティア活動とは、たとえば自治会活動や女性会・子ども会活動などのような地域にある組織で行う活動ではなく、個人の自発性・自主性に基づいて行われる活動をいいます。

「参加している」は10.5%となっており、平成17年調査に比べると2.3ポイント低下しています。

「参加している」が高いのは、性別では女性、年齢別では65～74歳、家族構成別では夫婦だけ、地域別では土山、信楽となっています。

図表19 ボランティア活動の参加状況



(5) 参加しているボランティア活動の内容

前問でボランティア活動に「参加している」と答えた人の活動内容は次のとおりです。

図表20 参加しているボランティア活動の内容

【清掃・環境】 ・地域の清掃 10 ・地域の草刈り 8 ・福祉施設の清掃・草刈り 6 ・植林・植樹 3 ・河川の清掃・倒木等の撤去 2 ・市施設公園の清掃（掘り返し機械使用）、土面の整地（軽トラ使用） ・道路上のはみ出し樹木の伐採 ・区内環境改善 ・里山の整備 ・有害動物の駆除 【子ども・子育て支援】 ・スクールガード・子どもの見守り 9 ・小学校でのお話し会・読み聞かせ 4 ・子育て支援 2 ・小学校の図書室の環境整備 ・小学校を週に1度訪問し、子どもたちと学ぶ ・趣味を通しての子ども教室 ・子どもに粘土遊びの楽しさを伝える ・子どもの遊びの広場 ・昔の遊び伝承 ・県の子育て支援（ホームステイ事業） ・市の子育て支援 ・子育てサロンへの支援 ・子育てサポーター ・スポーツ少年団の指導 3 ・ボーイスカウトの指導 ・里山での、子どもたちへの自然教育 ・こども未来課ブックスタートサポーター ・こども応援課つどいの広場サポーター ・外国人の子どもの学習支援 【障がい者支援】 ・障がい児サマースクールの手伝い 5 ・障がい児と遊んだり遠出したりする活動 ・障がい者福祉事業 ・福祉作業所での手伝い ・信楽学園での餅つき ・くるみ作業所での餅つき ・手話通訳、手話普及活動 ・福祉施設での本の読み聞かせ ・障がい者が店を出すときに助っ人をする 【高齢者支援】 ・高齢者ふれあいいきいきサロンでの手伝い 13 ・施設訪問（コーラス・唄・民謡・オカリナ等） 5 ・車いすレクダンス 3 ・介護予防ミニサークル 2 ・養護老人施設・心身障害者施設でのサロン開催 ・地区の「おたっしや広場」の手伝い ・区の高齢者を月2回集めて、食事をつくったり遊んだりしている ・老人介護施設での喫茶サービス ・施設訪問にて趣味の南京玉すだれの披露 ・施設訪問にて趣味の新舞踊を披露 ・デイサービスセンターや老人介護施設などへの慰問・手伝い 5 ・高齢者の家庭訪問 ・高齢者の送迎および安否確認（お助け隊）	・区内 65 歳以上の登録者を送迎・生活支援 ・高齢者が被害に遭わない活動 ・認知症キャラバンメイト ・介護施設で認知症予防のゲーム ・車いすボランティア ・おしゃべりボランティア ・寝たきりの人々のヘアカット 【スポーツ・健康】 ・スポーツボランティア 3 ・スポーツ推進委員 ・健康推進委員 2 ・健康体操 ・体育指導員 ・ソフトボールの競技役員 ・スキー大会運営の手伝い ・グランドゴルフ ・あいの土山マラソン・市民駅伝・市民陸上競技大会での補助役員 【その他】 ・自治振興会の手伝い 3 ・日赤 3 ・地域での奉仕 2 ・食事づくり、お弁当づくり 2 ・血圧測定 ・ご近所福祉 ・地域ボランティア隊（外出手助け、買い物代行、ごみ出し、清掃等） ・地域の行事の手伝い ・地域カフェの手伝い ・家事の手伝い ・野菜づくりをして欲しい人に分けてあげる ・公立ホールでのイベント時の手伝い ・地域を活性化するイベント ・油日駅、甲賀駅を守る会のイベント ・ふれあい活動 ・江田神山コスモスの会での昼食づくり ・江田神山地区児童育成会収穫祭 ・斎王群行の男性の衣装着付け ・観光ガイド 3 ・レクリエーション活動 ・イルミネーションの飾りつけ ・多羅尾代官陣屋跡でのボランティア ・東日本大震災被災地ボランティア ・ソロプチミスト活動 ・薪割クラブ ・保護司 ・更婦 ・寡婦・母子福祉推進員 ・自分の趣味を生かしたささやかなボランティア ・甲賀市ボランティア連絡協議会で公民館活動、イベント参画等 ・「あしなが」参加・寄付 ・ロータリー寄付 ・葬儀・告別式の進行・相談（友人葬） ・パトロール
---	--

(6) ボランティア活動に参加している理由

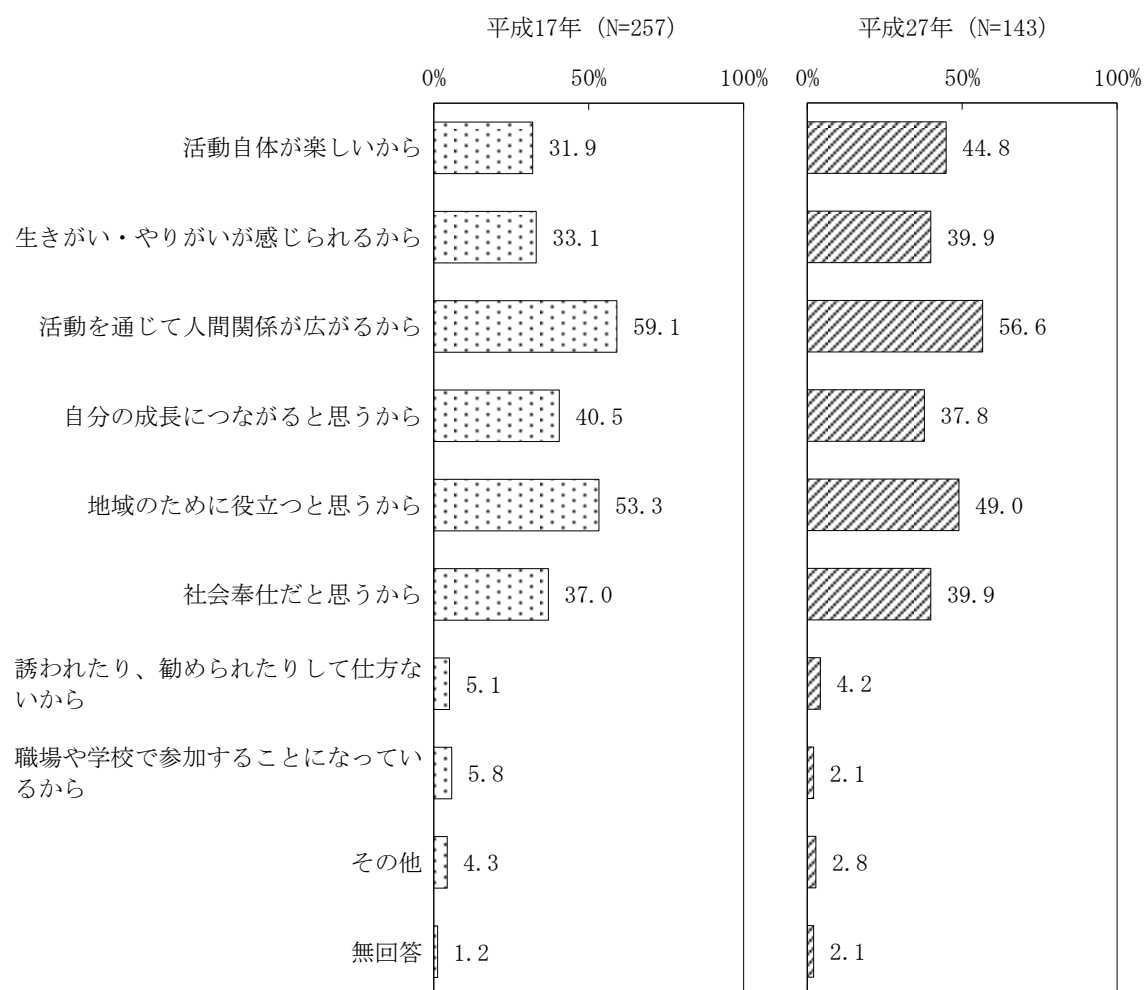
ボランティア活動に「参加している」と答えた143人に、ボランティア活動に参加している理由をたずねたところ、「活動を通じて人間関係が広がるから」が56.6%と最も高くなっています。「地域のために役立つと思うから」「活動自体が楽しいから」も40%を上回っています。平成17年調査と比べると、「活動自体が楽しいから」が12.9ポイント高くなっているのが特徴としてあげられます（図表21）。

性別にみると、男性は「地域のために役立つと思うから」が最も高く、女性は「活動を通じて人間関係が広がるから」が最も高くなっています。

年齢別にみると、40歳未満は「活動自体が楽しいから」が最も高く、40～64歳は「地域のために役立つと思うから」が最も高くなっています。65歳以上は「活動を通じて人間関係が広がるから」が最も高くなっています。

家族構成別にみると、ひとり暮らし、夫婦だけ、3世代は「活動を通じて人間関係が広がるから」が高く、2世代は「地域のために役立つと思うから」が最も高くなっています（図表22）。

図表21 ボランティア活動に参加している理由（複数回答）



地域別では、いずれも「活動を通じて人間関係が広がるから」が最も高く、甲賀は「地域のために役立つと思うから」、信楽は「社会奉仕だと思ふから」も高くなっています（図表22）。

「その他」として、「以前、家族が入所していてお世話になったから（第一びわこ学園の草刈りボランティア）」「体力維持、健康のため」「ハンディを持った人や、その周囲の人たちを少しでも楽にしたいから」が記載されていました。

図表22 ボランティア活動に参加している理由（属性別、複数回答）

単位：Nは人、他は%

区 分		N	活動自体が楽しいから	生きがい・やりがいを感じるから	活動を通じて人間関係が広がるから	自分の成長につながると思ふから	地域のために役立つと思ふから	社会奉仕だと思ふから	誘われたり、勧められたりして仕方ないから	職場や学校で参加することになっているから	その他	無回答
性別	男 性	56	44.6	35.7	51.8	23.2	<u>64.3</u>	42.9	7.1	3.6	5.4	1.8
	女 性	87	44.8	42.5	<u>59.8</u>	47.1	39.1	37.9	2.3	1.1	1.1	2.3
年 齢 別	40歳未満	11	<u>63.6</u>	45.5	36.4	45.5	27.3	27.3	9.1	18.2	-	-
	40～64歳	44	36.4	29.5	54.5	38.6	<u>61.4</u>	45.5	11.4	2.3	4.5	-
	65～74歳	58	48.3	39.7	<u>58.6</u>	39.7	44.8	36.2	-	-	1.7	5.2
	75歳以上	28	46.4	53.6	<u>64.3</u>	28.6	42.9	42.9	-	-	3.6	-
家族構成別	ひ と り	21	23.8	28.6	<u>61.9</u>	33.3	47.6	38.1	-	4.8	-	-
	夫婦だけ	52	46.2	34.6	<u>61.5</u>	32.7	50.0	36.5	1.9	-	3.8	3.8
	2 世 代	41	46.3	36.6	46.3	41.5	<u>51.2</u>	43.9	7.3	2.4	2.4	2.4
	3 世 代	24	54.2	58.3	<u>58.3</u>	41.7	37.5	37.5	8.3	4.2	4.2	-
	そ の 他	5	60.0	80.0	60.0	60.0	80.0	60.0	-	-	-	-
地 域 別	水 口	38	50.0	39.5	<u>60.5</u>	39.5	52.6	31.6	-	-	7.9	2.6
	土 山	17	41.2	47.1	<u>58.8</u>	52.9	52.9	41.2	5.9	5.9	-	-
	甲 賀	20	65.0	50.0	<u>70.0</u>	30.0	<u>70.0</u>	45.0	-	-	-	5.0
	甲 南	40	42.5	42.5	<u>55.0</u>	37.5	40.0	40.0	2.5	-	2.5	2.5
	信 楽	26	26.9	23.1	<u>46.2</u>	30.8	42.3	<u>46.2</u>	15.4	7.7	-	-

(7) ボランティア活動に参加していない理由

ボランティア活動に「参加していない」と答えた1,217人に、その理由をたずねたところ、「(仕事や育児・家事などで忙しく) 時間がないから」が45.2%と最も高くなっています。「体力や健康状態に自信がないから」も20%以上の比較的高い割合となっています。平成17年調査とほぼ同様の傾向となっています(図表23)。

性別にみると、いずれも「時間がないから」が最も高くなっています。男性は女性に比べて「活動自体がよくわからないから」「関心がないから」などが高く、女性は男性に比べて「体力や健康状態に自信がないから」が高くなっています。

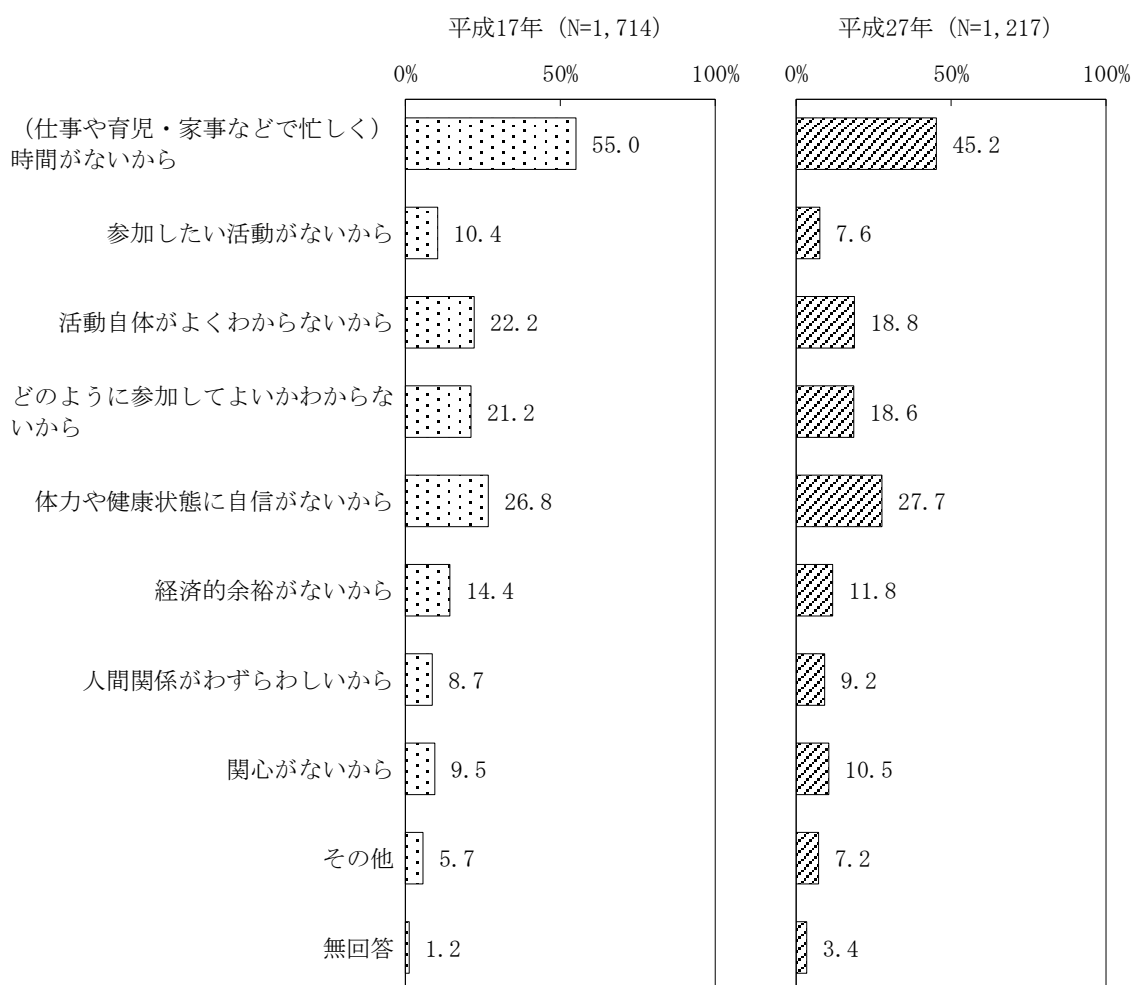
年齢別にみると、40歳未満、40～64歳は「時間がないから」が最も高く、65歳以上は「体力や健康状態に自信がないから」が最も高くなっています。

家族構成別にみると、ひとり暮らし、夫婦だけは「体力や健康状態に自信がないから」が最も高く、2世代世帯、3世代世帯は「時間がないから」が最も高くなっています。

地域別では、いずれも「時間がないから」が最も高くなっています(図表24)。

「その他」として、図表25の内容が記載されていました。

図表23 ボランティア活動に参加していない理由(複数回答)



図表24 ボランティア活動に参加していない理由（属性別、複数回答）

単位：Nは人、他は%

区 分		N	時間がないから (仕事や育児・家事などで忙しく)	参加したい活動がないから	活動自体がよくわからないから	どのように参加してよいかわからないから	体力や健康状態に自信がないから	経済的余裕がないから	人間関係がわずらわしいから	関心がないから	その他	無回答
性別	男 性	539	<u>45.8</u>	8.7	<u>21.5</u>	17.4	24.5	13.9	9.8	<u>14.1</u>	4.5	3.0
	女 性	656	<u>46.0</u>	6.6	16.9	19.4	<u>30.0</u>	10.1	8.7	7.8	9.5	3.5
年 齢 別	40歳未満	240	<u>66.3</u>	5.8	25.0	25.0	5.8	10.8	9.6	20.8	3.3	2.5
	40～64歳	475	<u>59.8</u>	8.4	23.2	21.9	15.2	15.6	7.8	9.9	3.6	2.9
	65～74歳	233	34.8	10.7	19.7	20.6	<u>41.2</u>	11.6	14.6	7.3	4.3	1.3
	75歳以上	258	8.9	4.3	4.3	5.4	<u>58.5</u>	6.2	6.6	5.4	19.8	7.0
家族構成別	ひ と り	176	30.1	8.5	17.0	21.0	<u>35.8</u>	18.8	12.5	10.8	13.1	3.4
	夫婦だけ	287	33.8	10.1	20.6	19.9	<u>37.3</u>	8.0	13.6	9.1	4.9	2.1
	2 世 代	534	<u>55.6</u>	5.8	17.2	17.0	21.9	12.5	7.9	11.6	5.8	2.8
	3 世 代	165	<u>49.7</u>	7.3	19.4	18.8	20.0	6.1	3.6	9.7	9.1	8.5
	そ の 他	44	40.9	6.8	29.5	22.7	29.5	25.0	6.8	11.4	11.4	-
地 域 別	水 口	480	<u>48.5</u>	6.5	21.7	21.5	22.3	11.3	8.3	10.2	6.7	2.1
	土 山	105	<u>45.7</u>	8.6	9.5	17.1	32.4	13.3	10.5	7.6	7.6	4.8
	甲 賀	155	<u>39.4</u>	6.5	20.0	18.7	35.5	11.0	8.4	8.4	7.1	5.8
	甲 南	298	<u>45.6</u>	9.1	17.4	16.4	29.9	11.7	10.4	13.8	8.7	3.0
	信 楽	167	<u>41.9</u>	8.4	16.2	15.6	29.9	13.2	9.0	9.0	6.0	4.8

図表25 ボランティア活動に参加していない理由（その他）

・ 高齢 27 ・ 地域組織のボランティア活動が多すぎて、個人で活動する余裕はない 9 ・ 要介護者 8 ・ 病気 6 ・ 入院中 4 ・ 要介護者がいる 3 ・ 障がい者 2 ・ 障がい者がいる ・ 施設入所中 ・ 日時が合わない ・ 機会に恵まれない ・ 情報がない ・ 慣れない地域なので不安	・ マンション・アパート住民は、よそ者と言われる ・ 地元ではないから ・ 外国人なので ・ 日程の合う単発的なことには参加した ・ 以前（もう少し若いころ）は参加していた ・ 妻が参加しており、時々サポートをしている ・ アルバイトをしている ・ 友だちと遊ぶのに忙しい ・ 活動参加準備中 ・ 他人の邪魔にならないようにしている ・ どこまでをボランティア活動というのか、わからない ・ 介護が必要な家族がいて、留守にできない ・ 家族が反対する
---	---

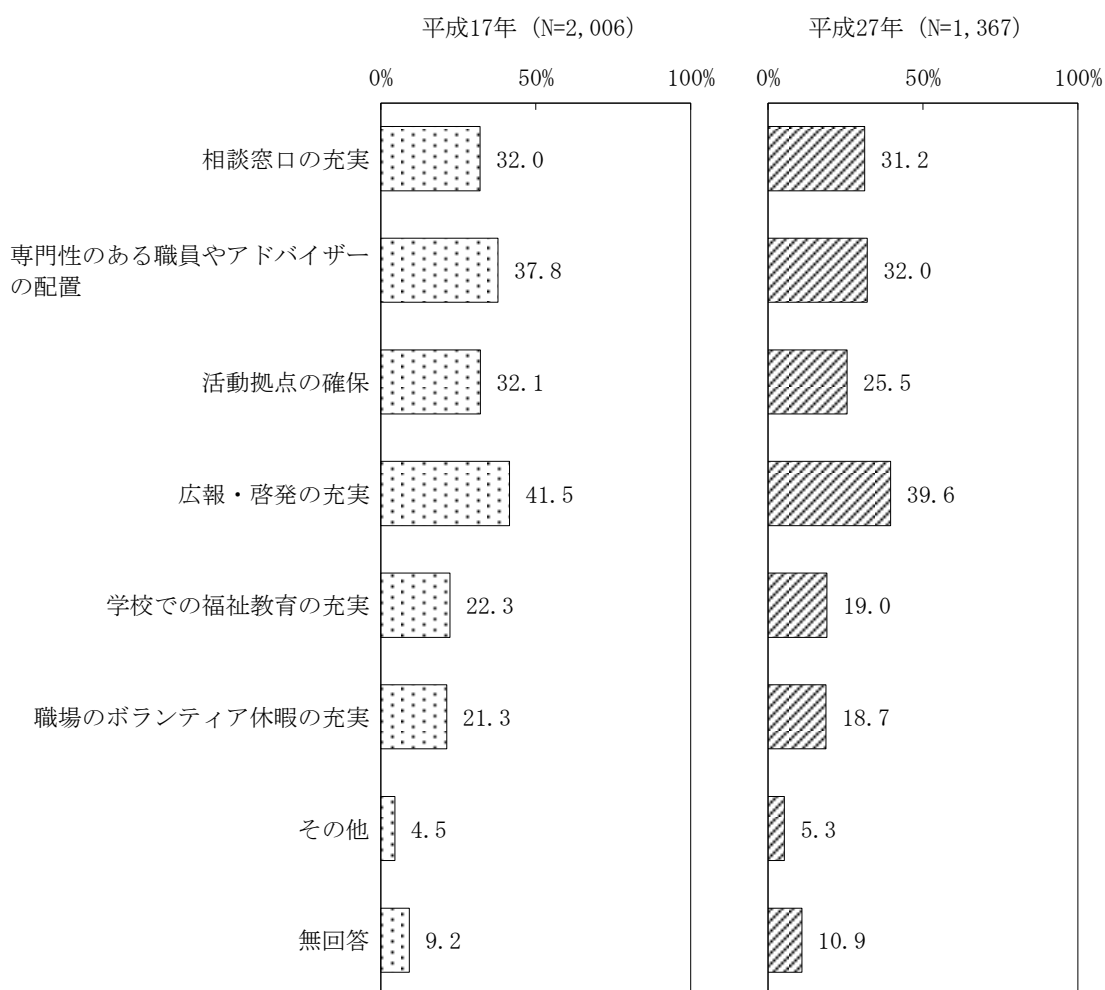
(8) ボランティア活動を発展させるために必要なこと

ボランティア活動をさらに発展させるために必要な基盤整備や活動については、「広報・啓発の充実」が39.6%と最も高く、「専門性のある職員やアドバイザーの配置」「相談窓口の充実」も30%以上の比較的高い割合です。平成17年調査と比べると、同様の傾向にありますが、割合は全般的に低くなっています。特に「活動拠点の確保」「専門性のある職員やアドバイザーの配置」は5ポイント以上低下しています（図表26）。

属性別にみると、地域別の信楽以外は「広報・啓発の充実」が最も高くなっています。信楽は「専門性のある職員やアドバイザーの配置」が最も高くなっています。また、家族構成別のその他の世帯と地域別の土山の「専門性のある職員やアドバイザーの配置」は「広報・啓発の充実」と並んでいます（図表27）。

「その他」として、図表28の内容が記載されていました。

図表26 ボランティア活動を発展させるために必要なこと（複数回答）



図表27 ボランティア活動を発展させるために必要なこと（属性別、複数回答） 単位：Nは人、他は%

区 分		N	相談窓口の充実	専門性のある職員やアドバイザーの配置	活動拠点の確保	広報・啓発の充実	学校での福祉教育の充実	職場のボランティア休暇の充実	その他	無回答
性別	男 性	595	30.3	30.6	25.9	<u>38.5</u>	16.5	21.7	6.4	8.1
	女 性	749	31.9	33.1	25.2	<u>40.3</u>	21.2	16.6	4.3	13.4
年 齢 別	40歳未満	251	28.3	27.5	20.7	<u>45.8</u>	27.5	31.1	5.2	4.8
	40～64歳	519	28.7	32.9	27.9	<u>40.8</u>	18.3	26.0	6.0	5.2
	65～74歳	292	35.6	33.6	29.1	<u>37.3</u>	17.1	6.5	4.5	12.3
	75歳以上	291	33.7	32.6	21.0	<u>35.4</u>	15.5	7.6	4.8	24.4
家族構成別	ひ と り	199	34.7	30.2	21.1	<u>37.2</u>	17.1	14.1	6.0	15.1
	夫婦だけ	340	31.8	31.2	26.5	<u>41.5</u>	17.9	12.1	5.6	10.9
	2 世 代	577	29.1	30.3	24.6	<u>38.0</u>	18.7	23.1	3.5	9.9
	3 世 代	189	33.9	40.7	29.6	<u>45.5</u>	24.9	21.2	4.8	9.5
	そ の 他	49	28.6	<u>32.7</u>	30.6	<u>32.7</u>	18.4	26.5	24.5	6.1
地 域 別	水 口	521	32.6	31.7	24.4	<u>44.3</u>	18.4	19.0	4.8	9.2
	土 山	123	28.5	<u>39.0</u>	30.9	<u>39.0</u>	20.3	17.9	6.5	9.8
	甲 賀	176	27.3	33.0	25.0	<u>36.9</u>	16.5	14.8	5.1	13.6
	甲 南	339	33.6	27.4	26.8	<u>41.9</u>	20.9	20.9	4.7	11.5
	信 楽	193	28.5	<u>36.3</u>	24.4	28.0	19.2	18.1	7.3	10.4

図表28 ボランティア活動を発展させるために必要なこと（その他）

・ ボランティア活動中のトラブル・事故等に対する補償 2 ・ 子どもを預けられる環境（一緒に活動できるのか？） ・ 時間のゆとり 2 ・ 個々の生活の安定 2 ・ ボランティア活動と生活のバランスを保てるように健康管理すること 2 ・ 地域活動の強化 2 ・ 地域内での活動（大きく枠を広げない） ・ 交通費の支給 ・ 労働賃金の支給 ・ 活動資金の援助 ・ 計画性のある企画、市民のためになる予算配分 ・ 「今月のボランティア募集」の広報（気軽に一歩が踏み出せるように） ・ 若い人向けにメールやアプリでの呼びかけ ・ 身近に感じるようにする取り組み ・ ネットワークの整備 ・ 周囲の環境 ・ 職場の理解による斡旋	・ すべての企業でボランティア活動義務化 ・ 専門的な特技の講習（慰問で披露して楽しんでもらう） ・ 各人に専門性の有無を聞く（特技を持つ人を発掘し、参加してもらう） ・ 中核になる人の育成 ・ 40～50代の参加 ・ 運転できる人の参加 ・ 年配者でも利用しやすい交通手段の確保 ・ 子どもを通じて親を巻き込む ・ 市町村役場の退職者の活動をボランティアとして行う ・ 本人の意思が重要 ・ 人間関係が大切 ・ ボランティア活動に感謝する心 ・ 「縁起」を学ぶ ・ ボランティアは特別なことではないと思うように意識を変えていく工夫 ・ 男性の理解 ・ わからない 7 ・ 発展など求めている・必要ない・関心がない 3
---	---

3 暮らしの課題や福祉ニーズ

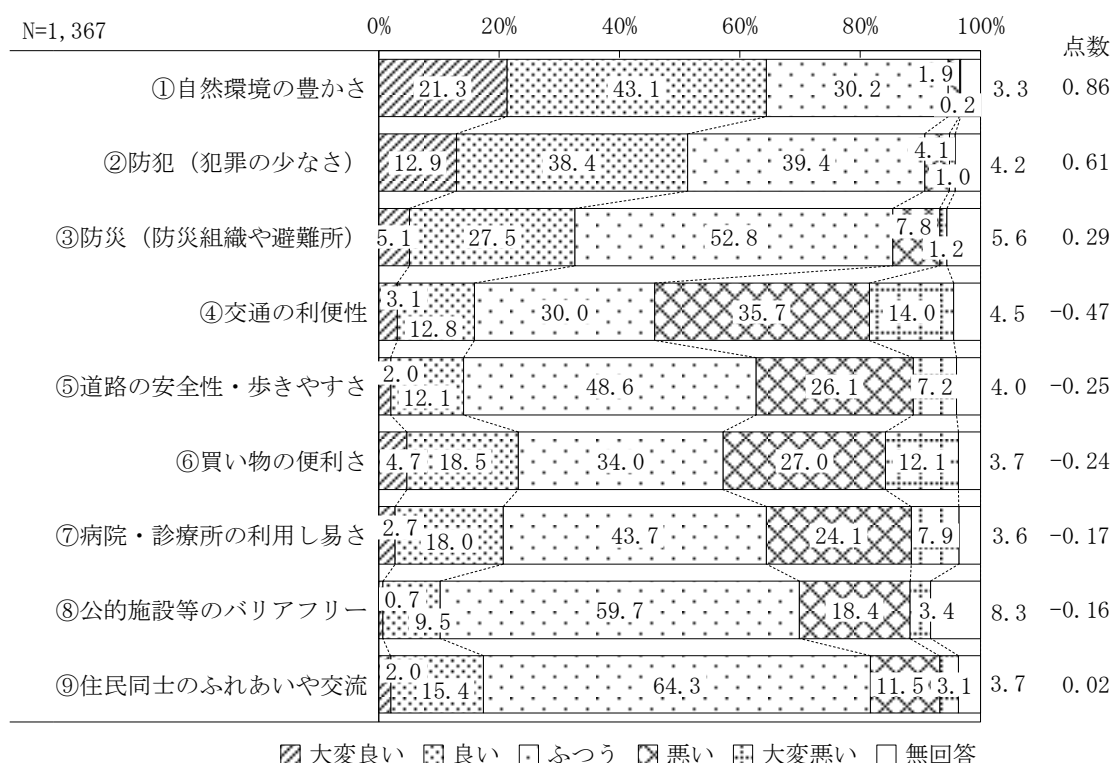
(1) 居住地区の生活環境

図表29は、住んでいる地域の生活環境9項目についてたずねたものです。

「大変良い」と「良い」を合計した＜良い＞は、①自然環境の豊かさが64.4%と最も高く、②防犯（犯罪の少なさ）も50%を上回っています。一方、「悪い」と「大変悪い」を合計した＜悪い＞は、④交通の利便性が49.7%と最も高く、次いで⑥買い物の便利さ（39.1%）、⑤道路の安全性・歩きやすさ（33.3%）、⑦病院・診療所の利用し易さ（32.0%）、などの順となっています。

点数（「大変良い」を＋2、「良い」を＋1、「ふつう」を0、「悪い」を－1、「大変悪い」を－2として計算した平均）をみると、①自然環境の豊かさが0.86と最も高く、②防犯、③防災、⑨住民同士のふれあいや交流を含めた4項目がプラスとなっています。そのほかの5項目はマイナスとなっており、④交通の利便性が－0.47と最も低くなっています。

図表29 生活環境の評価



（注）点数は、「大変良い」を＋2、「良い」を＋1、「ふつう」を0、「悪い」を－1、「大変悪い」を－2として計算した平均（以下同じ）。

点数を平成17年調査と比べると、9項目中8項目の評価が高くなっています。評価が下がっているのは④交通の利便性だけです。

図表30 生活環境の評価（平成17年調査との点数の比較）

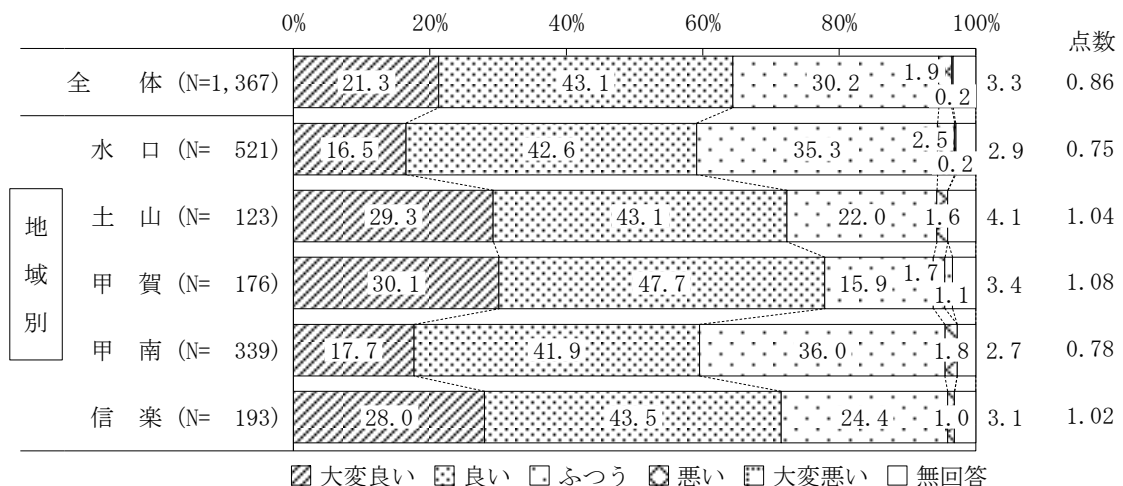
項 目	平成17年	平成27年	変 化
①自然の豊かさ	0.81	0.86	↑
②防犯（犯罪の少なさ）	0.38	0.61	↑
③防災（防災組織や避難所）	0.09	0.29	↑
④交通の利便性	-0.36	-0.47	↓
⑤道路の安全性・歩きやすさ	-0.34	-0.25	↑
⑥買い物の便利さ	-0.30	-0.24	↑
⑦病院・診療所の利用し易さ	-0.27	-0.17	↑
⑧公的施設等のバリアフリー	-0.34	-0.16	↑
⑨住民同士のふれあいや交流	0.01	0.02	↑

図表31～図表39は、地域の生活環境9項目について、地域別にみたものです。

① 自然環境の豊かさ

自然環境の豊かさは、たずねた9項目の中では最も評価の高い項目であり、点数はすべての地域がプラスとなっています。特に、甲賀、土山、信楽は1.0を上回り、＜良い＞が70%を超えています。なお、甲賀の1.08はすべての地域別評価の中で最も高い点数です。

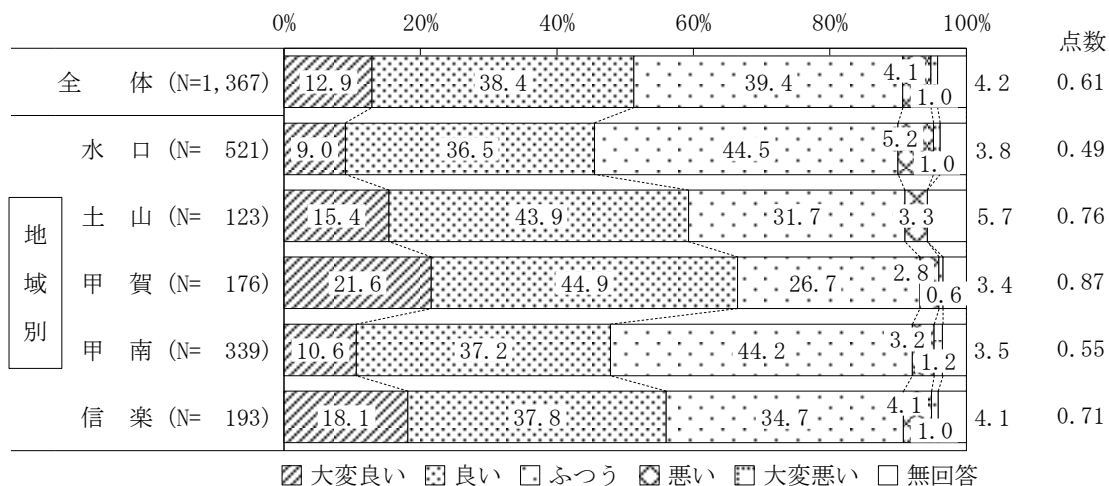
図表31 生活環境の評価（自然環境の豊かさ）



② 防犯（犯罪の少なさ）

防犯は、①自然環境の豊かさに次いで高い評価となっています。点数はすべての地域がプラスとなっており、①自然環境の豊かさと同様、甲賀、土山、信楽の順で高くなっています。

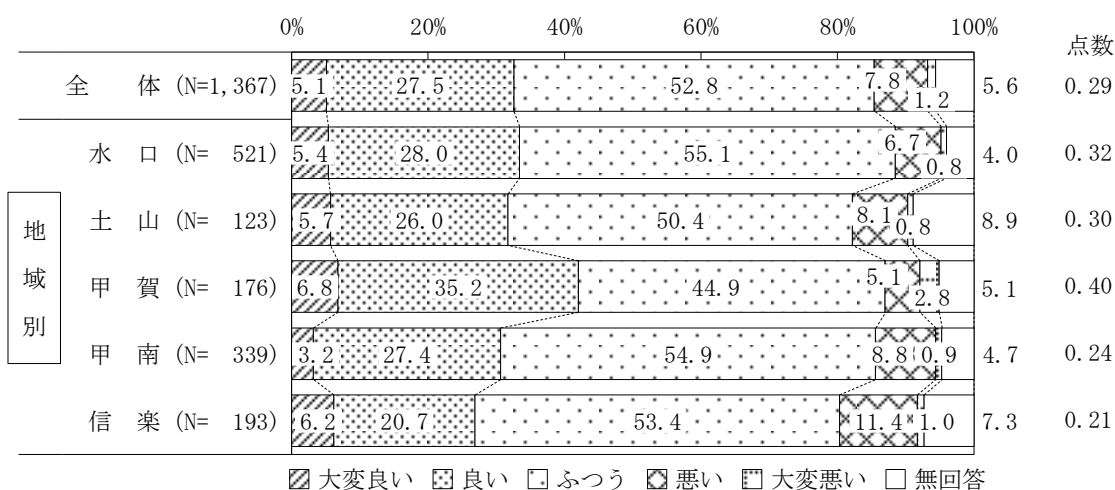
図表32 生活環境の評価（防犯（犯罪の少なさ））



③ 防災（防災組織や避難所）

防災は、3番目に高い評価であり、点数はすべての地域がプラスとなっています。地域による差は少なく、点数が最も高い甲賀と最も低い信楽とは0.19ポイントの差にとどまっています。

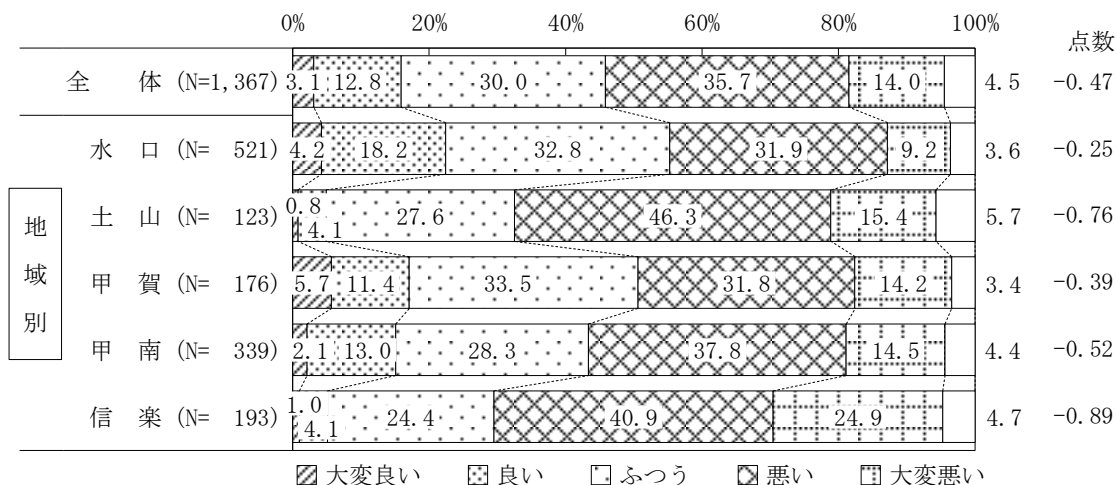
図表33 生活環境の評価（防災（防災組織や避難所））



④ 交通の利便性

交通の利便性は、9項目の中では最も評価の低い項目であり、点数はすべての地域がマイナスとなっています。特に、信楽、土山は低く、＜悪い＞が60%を超えています。なお、信楽の-0.89はすべての地域別評価の中で最も低い点数です。

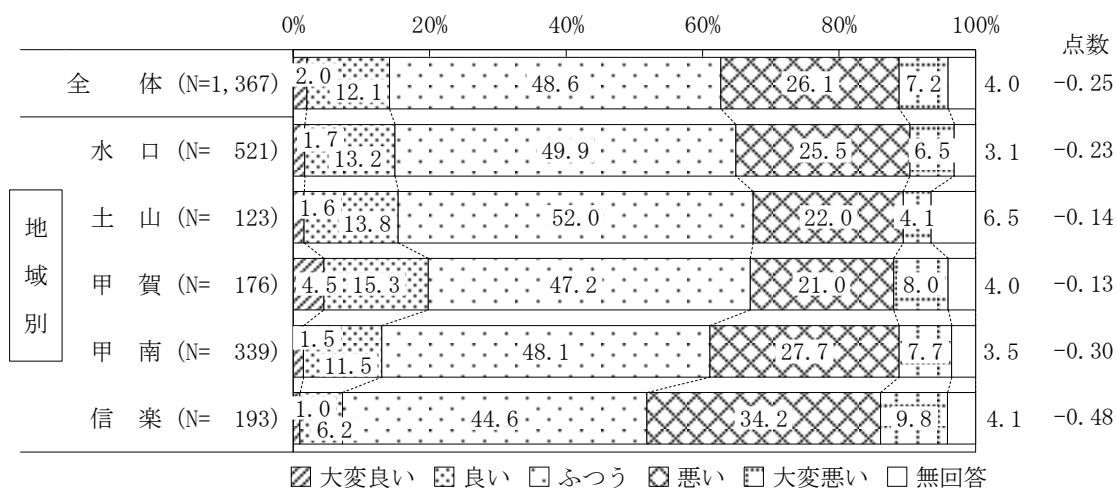
図表34 生活環境の評価（交通の利便性）



⑤ 道路の安全性・歩きやすさ

道路の安全性・歩きやすさは、④交通の利便性に次いで評価の低い項目であり、点数はすべての地域がマイナスとなっています。信楽が-0.48で最も低くなっています。

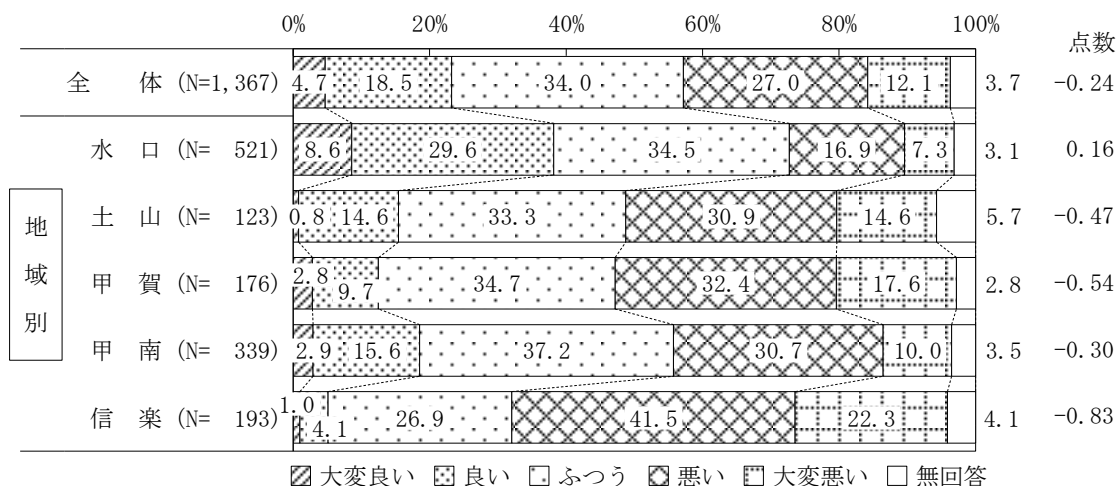
図表35 生活環境の評価（道路の安全性・歩きやすさ）



⑥ 買い物の便利さ

買い物の便利さは、3番目に低い評価となっています。水口は0.16とプラス評価ですが、他の地域はすべてマイナスです。特に、信楽は-0.83となっており、④交通の利便性(-0.89)に次いで低い点数です。点数の最も高い水口と最も低い信楽とでは0.99ポイントの開きがあります。

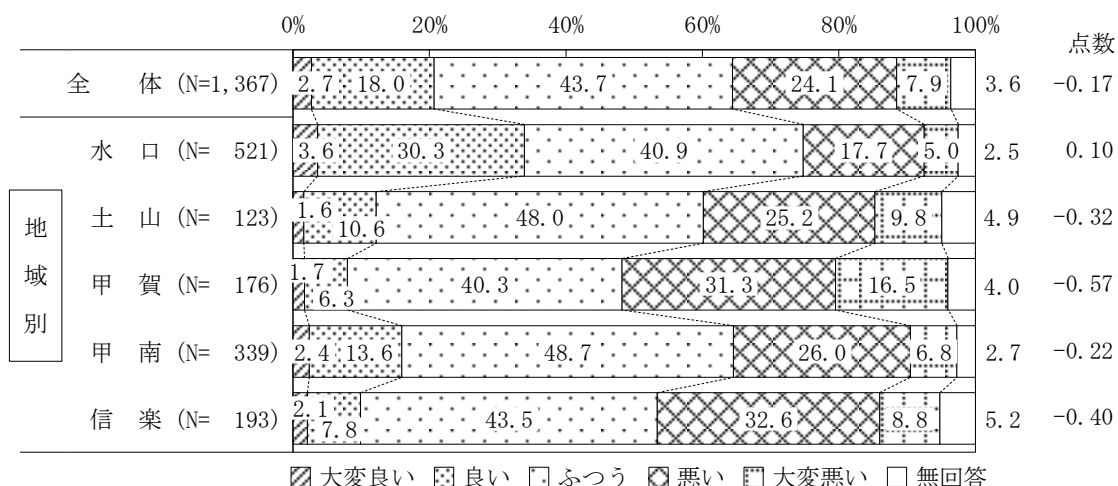
図表36 生活環境の評価（買い物の便利さ）



⑦ 病院・診療所の利用し易さ

病院・診療所の利用し易さは、水口は0.10とプラス評価ですが、他の地域はすべてマイナスです。最も点数が低いのは甲賀の-0.57です。

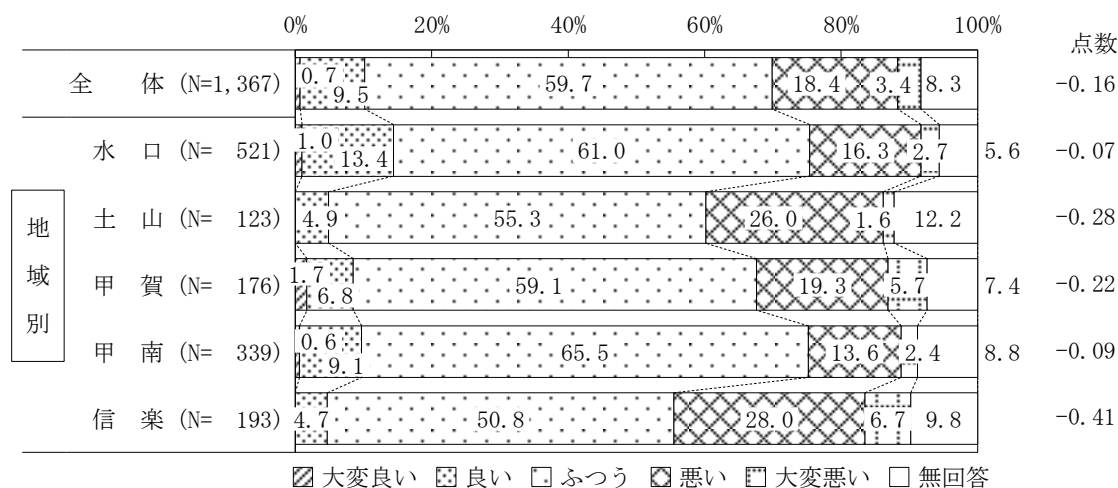
図表37 生活環境の評価（病院・診療所の利用し易さ）



⑧ 公共施設等のバリアフリー

公共施設等のバリアフリーは、「ふつう」が59.7%を占めており、＜良い＞が10.2%と低く、＜悪い＞も21.8%にとどまっています。比較的点数が高いのは水口、甲南であり、低いのは信楽です。

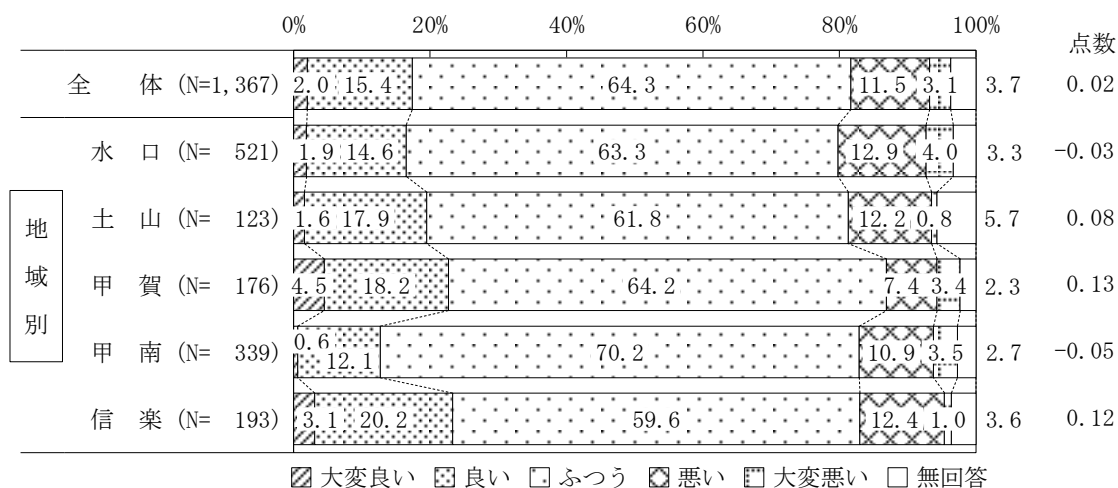
図表38 生活環境の評価（公共施設等のバリアフリー）



⑨ 住民同士のふれあいや交流

住民同士のふれあいや交流は、「ふつう」が64.3%を占めています。点数は全体としてはプラス評価です。プラスは甲賀、信楽、土山で、水口、甲南はわずかにマイナスとなっています。

図表39 生活環境の評価（住民同士のふれあいや交流）



(2) 地域の課題

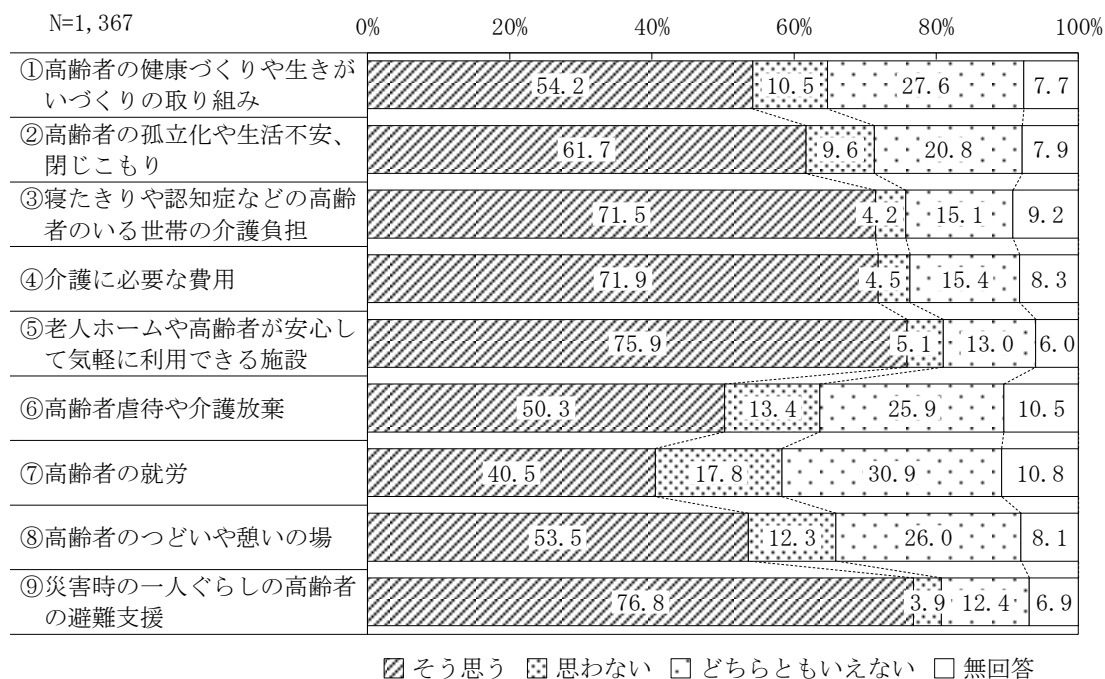
図表40～図表45は、「あなたのお住まいの身近な地域で、次の課題について、日頃から何とかしなければならないと思っていますか」という設問に対する回答です。高齢者分野、子ども・子育て分野、障がい者分野ごとに、それぞれ9項目、合計27項目の課題についてたずねました。

① 高齢者分野の課題

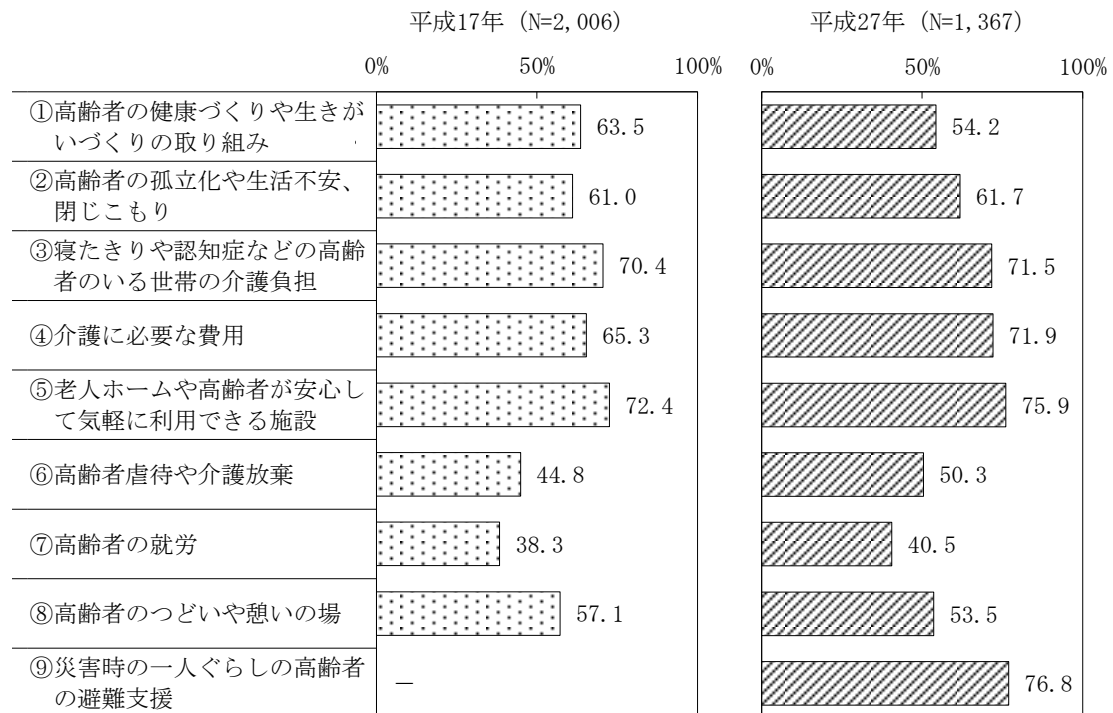
高齢者分野の9項目のうち、「そう思う」が最も高いのは、今回調査で新たに加えた⑨災害時の一人ぐらしの高齢者の避難支援の76.8%です。⑤老人ホームや高齢者が安心して気軽に利用できる施設、④介護に必要な費用、③寝たきりや認知症などの高齢者のいる世帯の介護負担も70%を上回っています（図表40）。

平成17年調査と比べると、「そう思う」は①高齢者の健康づくりや生きがいの取り組み、⑧高齢者のつどいや憩いの場、以外はすべて高くなっています。5ポイント以上高くなったのは、④介護に必要な費用、⑥高齢者虐待や介護放棄、といった高齢者介護に関する課題です（図表41）。

図表40 高齢者分野の課題



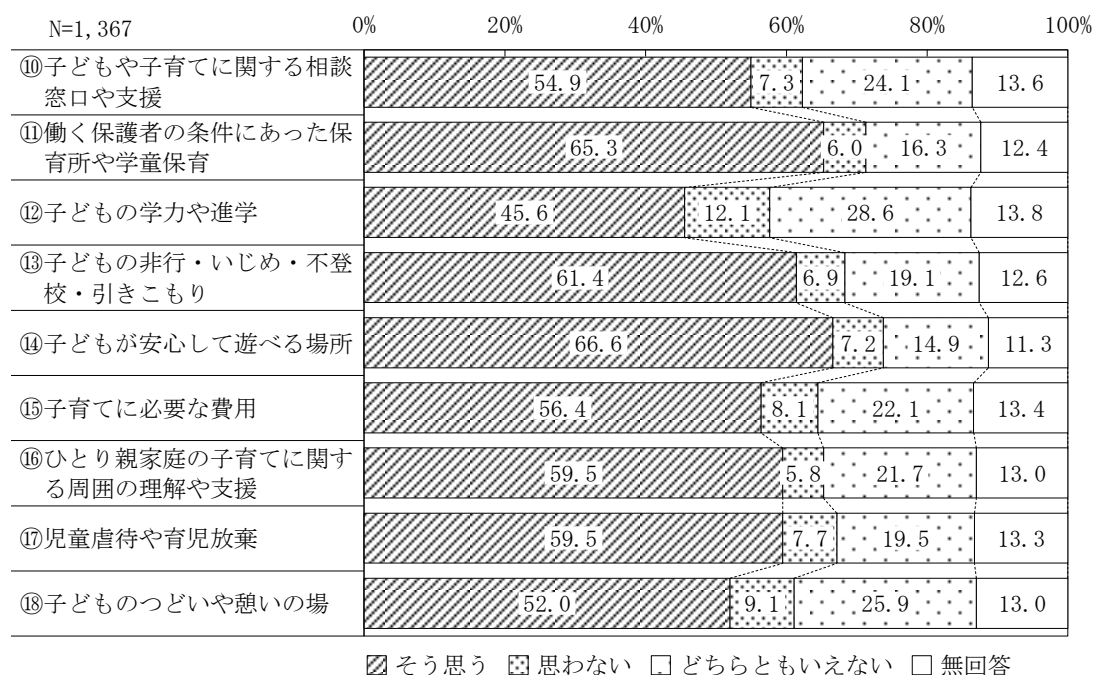
図表41 高齢者分野の課題（「そう思う」の割合）



② 子ども・子育て分野の課題

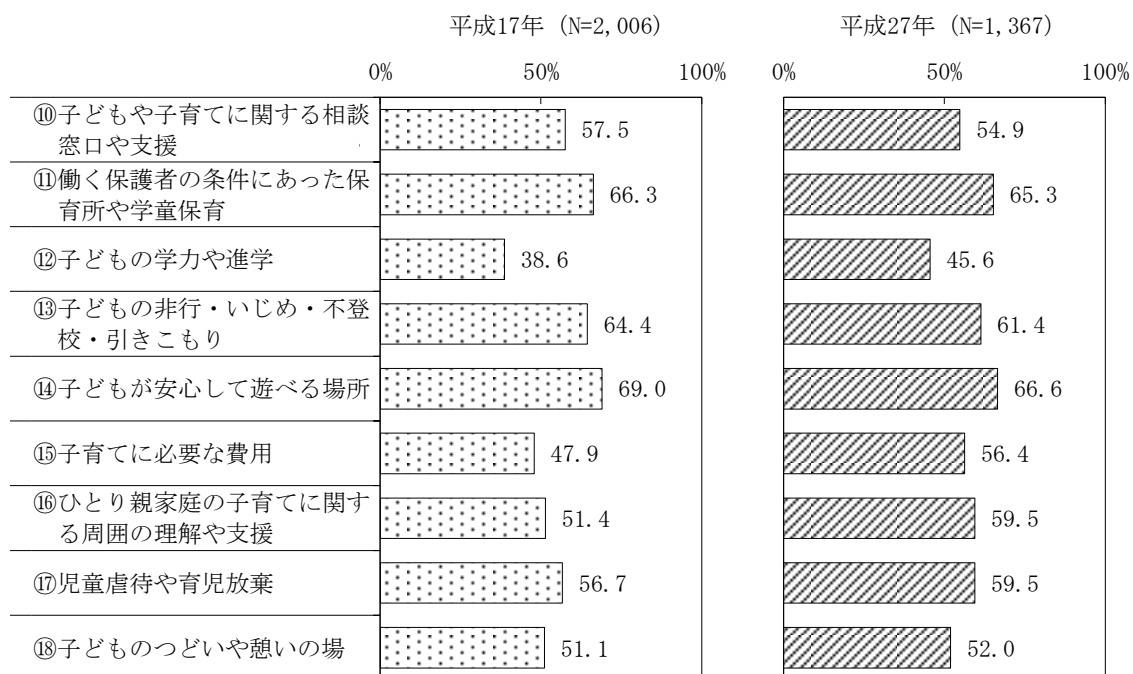
子ども・子育て分野のうち、「そう思う」が高いのは、⑭ 子どもが安心して遊べる場所、⑪働く保護者の条件にあった保育所や学童保育で65%を上回っています。⑬子どもの非行・いじめ・不登校・引きこもり、⑯ひとり親家庭の子育てに関する周囲の理解や支援、⑰児童虐待や育児放棄も60%前後の比較的高い割合となっています（図表42）。

図表42 子ども・子育て分野の課題



平成17年調査と比べると、「そう思う」は上位3項目については、割合は下がっていますが順序は変わっていません。5ポイント以上高くなったのは、⑮子育てに必要な費用、⑯ひとり親家庭の子育てに関する周囲の理解や支援、⑫子どもの学力や進学です(図表43)。

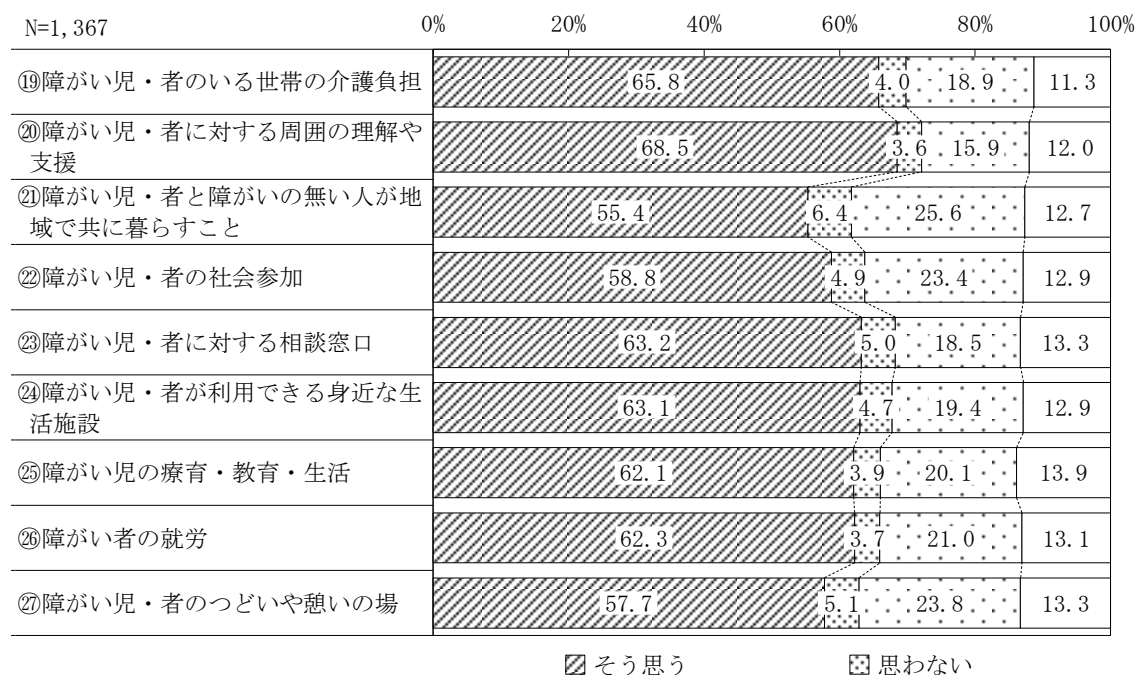
図表43 子ども・子育て分野の課題（「そう思う」の割合）



③ 障がい児・者分野の課題

障がい児・者分野のうち、「そう思う」が高いのは、⑳障がい児・者に対する周囲の理解や支援、㉑障がい児・者のいる世帯の介護負担で65%を上回っています。㉒障がい

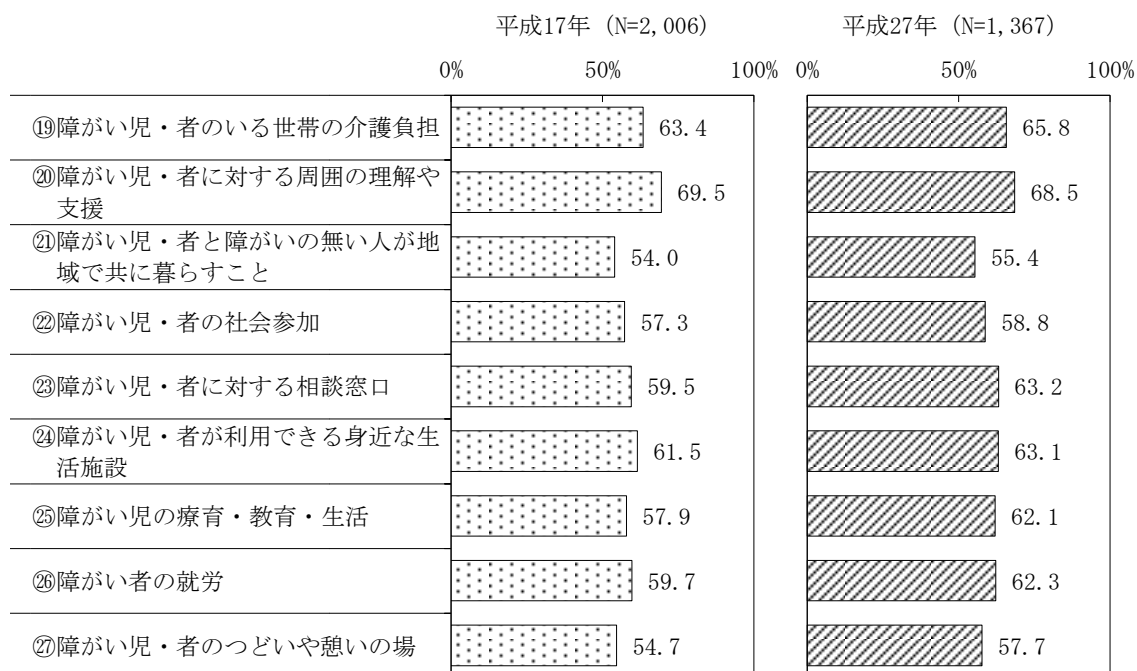
図表44 障がい児・者分野の課題



児・者に対する相談窓口、②④障がい児・者が利用できる身近な生活施設、②⑥障がい者の就労、②⑤障がい児の療育・教育・生活の4項目も60%以上です（図表44）。

平成17年調査と比べると、「そう思う」は全般的に割合が高くなっていますが、5ポイント以上上昇した項目はありません。割合が下がったのは②⑦障がい児・者に対する周囲の理解や支援だけです。（図表45）。

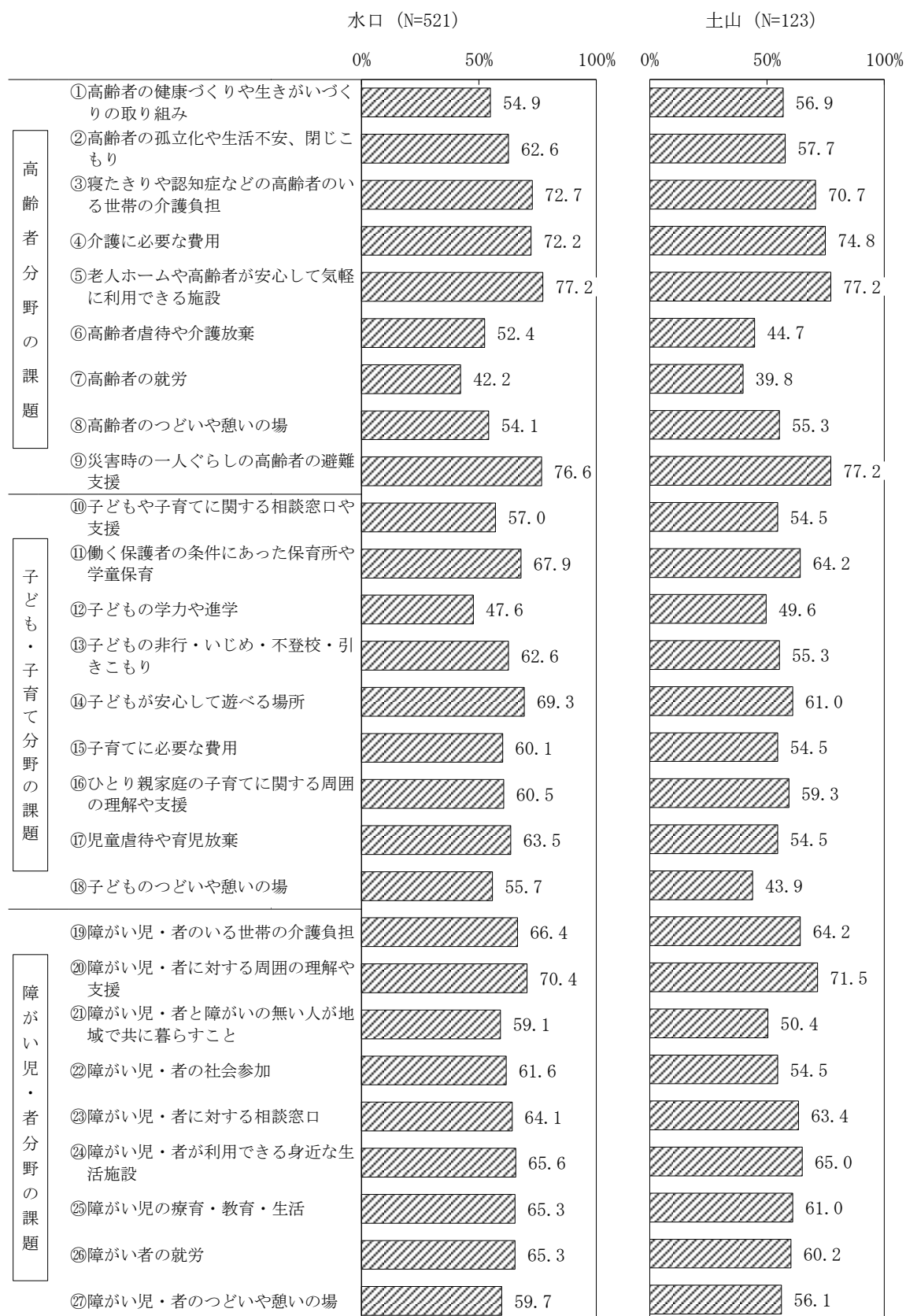
図表45 障がい児・者分野の課題（「そう思う」の割合）



④ 地域別にみた課題

図表46は地域別に課題をみたものです。水口は「⑤ 老人ホームや高齢者が安心して気軽に利用できる施設」が最も高く、甲賀、甲南、信楽は「⑨ 災害時の一人ぐらしの高齢

図表46 地域の課題（地域別、「そう思う」の割合）



者の避難支援」が最も高くなっています。土山は⑤⑨が同じ割合です。全般的に高齢者分野が高く、いずれの地域も上位3項目は高齢者分野の課題です。

そのほか、水口、甲南の「⑭ 子どもが安心して遊べる場所」、水口、土山の「⑳ 障がい児・者に対する周囲の理解や支援」が70%前後の高い割合となっています。



④ その他の課題

上記27項目のほかに、高齢者、子ども・子育て、障がい児・者に関わることで、身近な地域で何とかしなければならない課題として、図表47の内容が記載されていました。

図表47 地域の課題（その他）

【高齢者分野】 ・ 高齢者の外出（買い物・通院等）の支援 5 ・ 高齢者に対する周囲の理解や支援 2 ・ ひとり暮らし高齢者の生活支援全般 2 ・ 高齢者と子どもとの世帯分離の問題 2 ・ 高齢者が「つどいや憩いの場」まで行くための交通手段の確保 ・ 外出不可能な高齢者の健康・生きがいづくり ・ 日中ひとりになる高齢者の安否確認 ・ 高齢者（歩行者）の交通安全意識の低さへの対策 ・ 高齢者の車・自転車の運転の危険性への対策 ・ 高齢者を介護する家族の精神的ケア 【子ども・子育て分野】 ・ 子どもの遊ぶ施設（公園・児童館）の増設・整備 5 ・ 遊ぶ場所が減ったのか、あるいはどこで遊んでよいのかわからないのか、他人の家の敷地内や道路で遊ぶ子どもが増えたので、学校を通して遊び場所のマップを渡す等の対策を考えてほしい ・ 子どものためのスポーツクラブ・習い事などの種類や数の充実 ・ シングルマザー・シングルファザー・子どもさん家族など、その家庭にあった保障 ・ 乳幼児の予防接種などの案内はがきや通知がほしい ・ 子どもを預けられるところが少ない ・ 待機児童の解消 ・ 保育士・幼稚園教諭の労働条件の見直し ・ 子どものあいさつ運動推進 ・ 子どもに対する親のしつけ不足 ・ 20代以下のコミュニケーション不足 ・ 引きこもりへの対応 ・ 子どもの非行等、十分に見守る必要がある ・ 貴生川小学校は人数が多いので、教育（勉強）が行き届く環境を整えてほしい ・ 母親が専業主婦として子育てできる社会が大切。母親と子どものつながりに代役は立てられない	・ 中高生のマナー（通学マナー、スマホ、ジベタリアン）に対する注意、改善 ・ 転入者は子育て中、孤独を感じる。集いの場でも地元民でない自分に疎外感を感じて参加するのをやめた 【障がい児・者分野】 ・ 見た目にはわからない障がい児・者への対応の難しさ ・ 聴覚障がい者に対する理解や支援 ・ 障がい児・者の親への教育 ・ 障がい児・者に対応できる、公共交通機関の充実 ・ 精神障がい者もJRなどの交通運賃割引制度の適用対象にしてほしい 【全般・その他】 ・ 最近はプライバシーを尊重する傾向なので、関わり方を慎重に考えないと難しい 2 ・ 歩道を整備してほしい 2 ・ 街灯を設置してほしい ・ インフラが水口・甲南に集中しているが、その他地区の人々も困らないようにする施策が必要 ・ 道路のでこぼこ、要補修箇所が多すぎる（高齢者・障がい者にとって危険） ・ 災害時に高齢者・子ども・障がい者を含めて、みんながどう協力して行動するか ・ そもそも自治会活動が少なく、地域で話し合える機会が少ないことが問題 ・ 困っていることがダイレクトに市に伝わるような工夫が必要 ・ 「何とかしなければならない課題の存在すること」が地域住民の共通課題として理解されていない点が課題である ・ 「行政に頼るのは恥ずかしい」という、田舎の排他的な風習が一番の悪 ・ できるだけ広範囲（年齢、性別、職業、地域等）の人々が、気軽に福祉施策の対象となるように。ハンディキャップを持った人やその家族、関係者、ボランティア等と共に生きていけるような社会・地域となるような雰囲気醸成が必要 ・ 地域の考え方や、働く側の労働についての改善
---	--

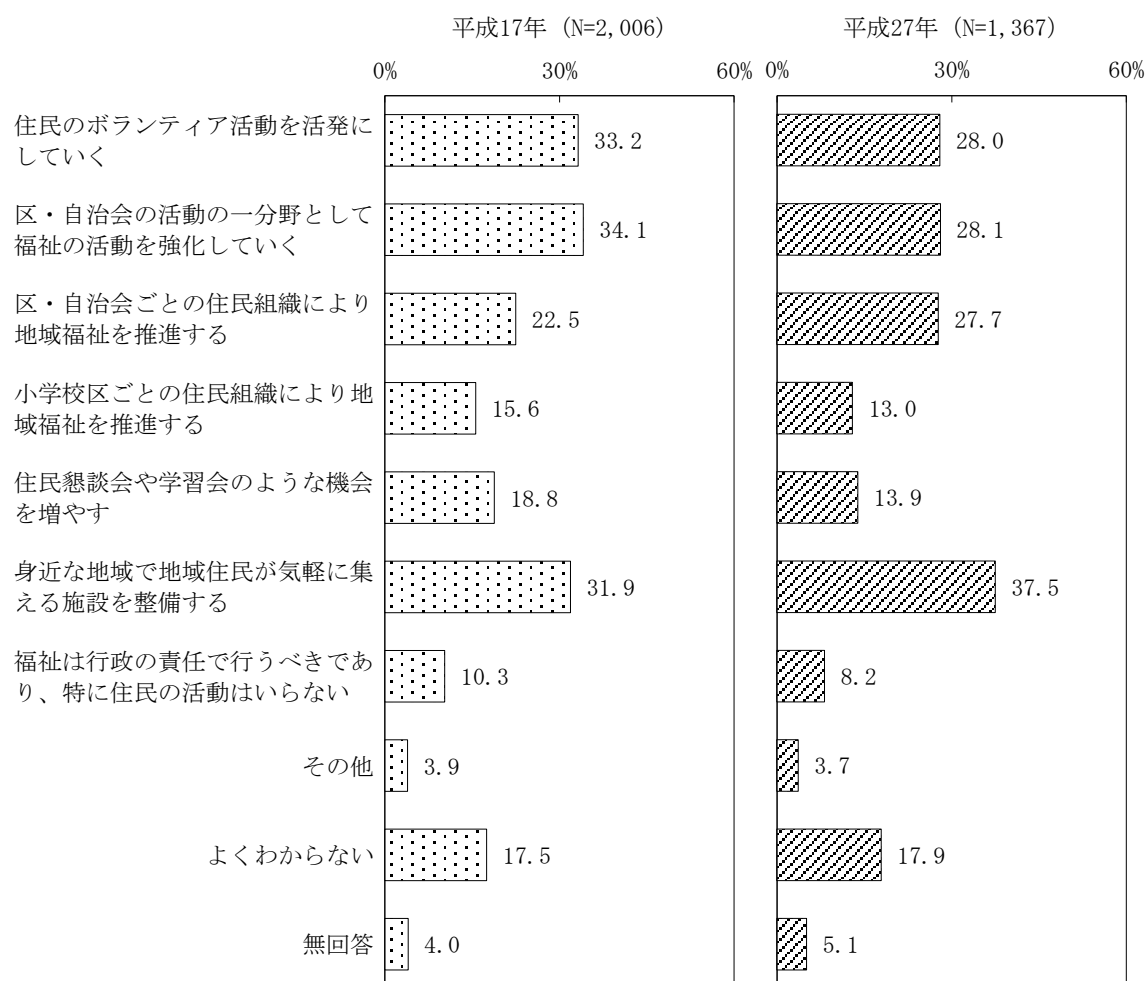
(3) 住民自身が福祉活動を推進していくために必要なこと

「今後、地域において住民自身が福祉活動を推進していくにはどのようにすればよいと思いますか」という設問に対しては、「身近な地域で地域住民が気軽集える施設を整備する」が37.5%と最も高くなっています。「区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化していく」「住民のボランティア活動を活発にしていく」「区・自治会ごとの住民組織により地域福祉を推進する」も27～28%台の比較的高い割合です。

平成17年調査と比べると、「身近な地域で地域住民が気軽集える施設を整備する」「区・自治会ごとの住民組織により地域福祉を推進する」が5ポイント以上高くなり、その他の項目は割合が下がっています。5ポイント以上低下したのは「区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化していく」「住民のボランティア活動を活発にしていく」です。「住民懇談会や学習会のような機会を増やす」も4.9ポイント低下しています（図表48）。

性別にみると、男女とも「身近な地域で地域住民が気軽集える施設を整備する」が最も高くなっています。男女差はあまり見られず、5ポイント以上の開きがあるのは「住民のボランティア活動を活発にしていく」だけです。

図表48 住民自身が福祉活動を推進していくために必要なこと（複数回答）



年齢別にみると、いずれも「身近な地域で地域住民が気軽に集える施設を整備する」が最も高く、65～74歳は44.5%の高率です。そのほか、65～74歳の「住民のボランティア活動を活発にしてい」、「65～74歳、75歳以上の「区・自治会ごとの住民組織により地域福祉を推進する」「区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化していく」が30%以上です。

家族構成別では、「その他」の世帯以外は「身近な地域で地域住民が気軽に集える施設を整備する」が最も高くなっています。

地域別にみると、いずれの地域も「身近な地域で地域住民が気軽に集える施設を整備する」が最も高く、土山、甲賀は40%を上回っています。

図表49 住民自身が福祉活動を推進していくために必要なこと（属性別、複数回答）

単位：Nは人、他は%

区 分		N	住民のボランティア活動を活発に していく	区・自治会の活動の一分野として 福祉の活動を強化していく	区・自治会ごとの住民組織により 地域福祉を推進する	小学校区ごとの住民組織により地 域福祉を推進する	住民懇談会や学習会のような機会 を増やす	身近な地域で地域住民が気軽に集 える施設を整備する	福祉は行政の責任で行うべきであ り、特に住民の活動はいらない	その他	よくわからない	無回 答
性 別	男 性	595	24.0	29.1	28.1	11.8	12.9	<u>36.6</u>	9.4	4.9	16.0	4.4
	女 性	749	<u>31.4</u>	27.5	28.0	13.8	15.0	<u>38.1</u>	7.2	2.7	19.6	5.1
年 齢 別	40歳未満	251	23.1	16.7	17.1	12.7	11.6	<u>29.9</u>	6.4	4.4	25.1	2.8
	40～64歳	519	27.0	27.9	25.0	9.6	11.8	<u>35.8</u>	9.2	3.7	18.9	3.9
	65～74歳	292	<u>34.6</u>	<u>32.5</u>	<u>34.2</u>	16.8	16.8	<u>44.5</u>	9.2	2.7	12.7	4.8
	75歳以上	291	27.8	<u>34.0</u>	<u>35.1</u>	15.1	16.8	<u>39.5</u>	6.9	3.8	15.1	8.9
家 族 構 成 別	ひ と り	199	25.6	21.6	29.6	10.6	17.6	<u>37.7</u>	8.5	5.0	21.1	8.0
	夫婦だけ	340	34.4	31.5	32.9	13.8	14.4	<u>42.9</u>	8.5	2.9	14.1	5.3
	2 世 代	577	25.1	27.9	22.5	11.8	10.6	<u>35.4</u>	8.8	3.3	19.4	3.6
	3 世 代	189	28.6	31.7	32.3	18.5	18.5	<u>38.1</u>	6.3	3.7	14.3	4.2
	そ の 他	49	24.5	20.4	28.6	10.2	14.3	22.4	6.1	8.2	28.6	6.1
地 域 別	水 口	521	27.3	26.1	29.6	14.0	14.8	<u>34.4</u>	8.4	2.9	20.3	5.0
	土 山	123	28.5	29.3	28.5	17.1	15.4	<u>43.9</u>	4.1	5.7	20.3	4.1
	甲 賀	176	33.0	30.7	31.3	13.1	17.6	<u>41.5</u>	8.0	3.4	11.9	4.5
	甲 南	339	29.2	29.5	26.5	13.6	13.6	<u>37.8</u>	9.4	4.4	16.8	4.4
	信 楽	193	23.3	29.0	22.8	7.3	8.3	<u>39.4</u>	7.8	3.1	16.1	6.7

「その他」として、図表50の内容が記載されていました。

図表50 住民自身が福祉活動を推進していくために必要なこと（その他）

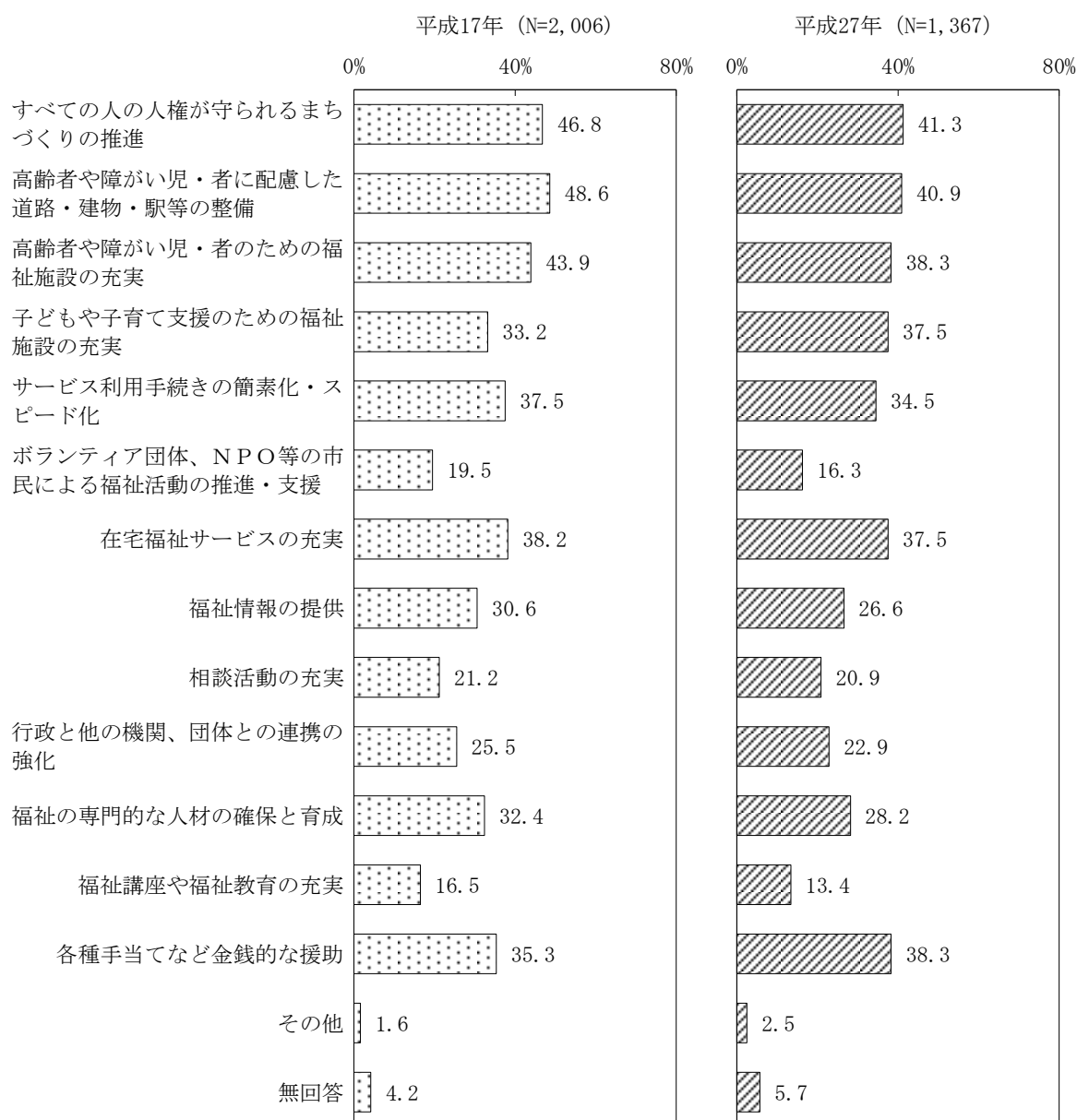
【行政の役割】 ・ 行政が住民の活動を、責任を持ってサポートする 5 ・ 行政がもっとリードすべき ・ 行政と住民が一体となって活動するべき ・ 行政と地域住民が集まる機会をつくる ・ 行政と住民が情報の公開や共有、方向性のすり合わせをする ・ 住民の意見を取り込んだ上で、行政の責任で行うべき ・ 行政の責任で行うべきで、住民は行政下で地区内にて組織化する ・ 行政は住民のボランティア活動に頼り過ぎ ・ ボランティアの範囲が広すぎる。行政はもう少し対応を考えるべき 【ボランティア】 ・ 住民の生活に余裕がないため、個々のボランティア活動を推進するのは難しい 2 ・ ボランティアは自主的に行うものであり、強制されて行うものではない ・ ボランティアは自主的に行うものであり、強制されて行うものではないので、幼いころからその精神を育てるために、学校や家庭における学びが大切 ・ 職場、学校、スポーツ少年団、公民館、サークル等の各種団体による福祉活動を奨励していく。最初は何らかのインセンティブが働くような仕組みを導入するのもやむを得ないと思います。特に若い人が気張らないで参加できるようになれば、より良い	【自治会・自治振興会】 ・ 自治会に入らないと何もできない、交流や情報がない、という現状を変える ・ 自治振興会と区の役割分担をはっきりして、地域主体で活動する。行政はこれまで以上に支援を行うべき ・ 自治会・組織をあまりにも多用すると、地域住民が逆に住みにくくなるのでは？ ・ 区、自治会にはまったく期待できない 【広報・イベント】 ・ 広報・郵便物で情報を発信し、参加できそうなイベントから活動できるようにする 3 ・ ボランティアを必要としていることを示す ・ どのような活動があり、どうすれば参加できるのかを知らせてほしい ・ 個人の認識の枠を増やす 【その他】 ・ 新しく引っ越してきた人々が利用できる施設を整備する ・ マンション・アパートの住人も参加できるようにする ・ 地域懇談会の参加者が少ない。参加者が増えるような取り組みが必要 ・ 同じ悩みを抱えている者同士の懇談会を設ける ・ 老人クラブの福祉活動を強化する ・ 地域で子育てできるようにする ・ 職場の理解の向上に努める地域活動に貢献する企業を増やす行政に頼らない自立福祉を考える ・ 各区に車いすを配置する ・ 町内を明るくする
---	--

(4) 市が重点を置くべき福祉施策

甲賀市が重点を置くべき福祉施策としては、「すべての人の人権が守られるまちづくりの推進」「高齢者や障がい児・者に配慮した道路・建物・駅等の整備」の2項目が40%以上となっています。また、「高齢者や障がい児・者のための福祉施設の充実」「各種手当てなど金銭的な援助」「子どもや子育て支援のための福祉施設の充実」「在宅福祉サービスの充実」も37～38%台で上位2項目と大きな開きはありません。

平成17年調査と比べると、全般的に割合が下がっています。高くなったのは「子どもや子育て支援のための福祉施設の充実」「各種手当てなど金銭的な援助」だけです（図表51）。

図表51 市が重点を置くべき福祉施策（複数回答）



性別にみると、男女とも「すべての人の人権が守られるまちづくりの推進」が最も高くなっています。比較的男女差はなく、5ポイント以上の開きがあるのは「在宅福祉サービスの充実」だけです。

上位6項目はわずか3.8ポイント差の中にあることから、上位項目の順序は属性別ごとに異なります。その中で特徴的なこととして、年齢別の40歳未満の「子どもや子育て支援のための福祉施設の充実」が53.0%と非常に高いことがあげられます。6項目以外では、65～74歳の「サービス利用手続きの簡素化・スピード化」が高くなっています（図表52）。

「その他」として、図表53の内容が記載されていました。

図表52 市が重点を置くべき福祉施策（属性別、複数回答）

区 分		N	すべての人の人権が守られるまちづくりの推進	高齢者や障がい児・者に配慮した道路・建物・駅等の整備	高齢者や障がい児・者のための福祉施設の充実	子どもや子育て支援のための福祉施設の充実	サービス利用手続きの簡素化・スピード化	ボランティア団体、NPO等の市民による福祉活動の推進・支援	在宅福祉サービスの充実	福祉情報の提供	相談活動の充実	行政と他の機関、団体との連携の強化	福祉の専門的な人材の確保と育成	福祉講座や福祉教育の充実	各種手当てなど金銭的な援助	その他	無回答
性別	男 性	595	40.7	40.3	38.2	38.2	33.8	17.0	34.5	24.5	22.4	22.7	27.4	13.3	38.7	3.2	4.5
	女 性	749	42.1	41.1	38.6	37.2	34.7	15.2	39.9	27.9	20.3	22.8	28.7	13.5	38.1	2.0	6.1
年齢別	40歳未満	251	35.1	33.9	28.7	53.0	24.3	11.2	20.3	23.5	19.1	21.1	24.7	13.1	47.0	2.0	4.4
	40～64歳	519	38.2	38.5	38.3	38.9	36.4	15.2	37.6	25.2	18.9	23.3	26.2	13.7	42.0	3.1	3.7
	65～74歳	292	46.2	43.5	39.0	28.4	39.4	18.8	43.2	27.7	20.5	17.8	32.2	11.0	30.1	2.1	5.8
	75歳以上	291	47.8	49.5	45.4	30.6	34.7	20.3	47.1	30.6	25.8	28.9	30.6	15.5	32.6	2.1	9.3
家族構成別	ひ と り	199	43.2	40.2	32.2	31.2	34.7	15.6	35.7	26.6	21.1	22.1	29.6	14.6	33.2	4.5	9.5
	夫婦だけ	340	45.9	45.9	42.6	33.5	33.2	21.2	42.1	27.6	22.9	23.8	31.2	14.4	31.2	2.1	5.9
	2 世 代	577	36.7	39.3	34.7	40.9	35.7	14.0	34.7	24.1	19.1	22.4	24.4	11.1	43.2	1.4	4.5
	3 世 代	189	43.4	37.0	44.4	42.3	36.0	12.7	40.2	33.3	21.2	24.9	31.2	17.5	43.4	3.7	2.6
	そ の 他	49	49.0	44.9	57.1	32.7	26.5	20.4	40.8	24.5	26.5	16.3	32.7	12.2	30.6	6.1	8.2
地域別	水 口	521	42.8	40.7	40.5	41.7	33.8	17.1	33.6	27.1	23.4	23.4	25.7	14.4	39.9	3.3	5.4
	土 山	123	46.3	35.8	42.3	41.5	34.1	17.9	46.3	23.6	17.9	24.4	34.1	13.0	39.0	0.8	5.7
	甲 賀	176	40.9	38.1	43.2	34.7	34.7	14.8	36.4	28.4	15.9	21.6	29.5	14.8	33.5	1.7	4.5
	甲 南	339	38.1	44.8	34.2	35.4	35.1	15.6	37.5	28.6	20.4	20.9	29.8	12.1	38.6	2.7	5.6
	信 楽	193	39.9	40.9	33.7	31.6	36.3	16.6	43.5	22.8	21.2	26.4	27.5	11.4	37.8	2.1	6.2

図表53 市が重点を置くべき福祉施策（その他）

- ・ 公共交通機関の利便性向上 4
- ・ 知らずして福祉を受けていない等、福祉の不公平感の解消・公平な援助 2
- ・ 買い物施設の充実
- ・ 情報の簡素化・見える化、情報の共有スペースの拡大、広報強化
- ・ 義務教育での福祉教育の充実
- ・ 社会奉仕の必要性和理念を全市民に教育
- ・ 予防的対策（介護予防、子どもの居場所づくり等）
- ・ 市の職員の態度や福祉に関する知識のなさ、思いやりのなさを何とかすること
- ・ 例示されたものすべてを実施できればよいが、市の財政の問題もあり、難しい
- ・ 限られた予算の中で質を求めると、きりが無い
- ・ 基本的に、他人に助けてもらえるとは思っていない
- ・ 個人単位で気軽に参加できるボランティアのチャンネルを増やしていく（仕組みづくり、PR、コーディネート者の育成等）
- ・ 制度にとらわれない支援
- ・ わからない 2

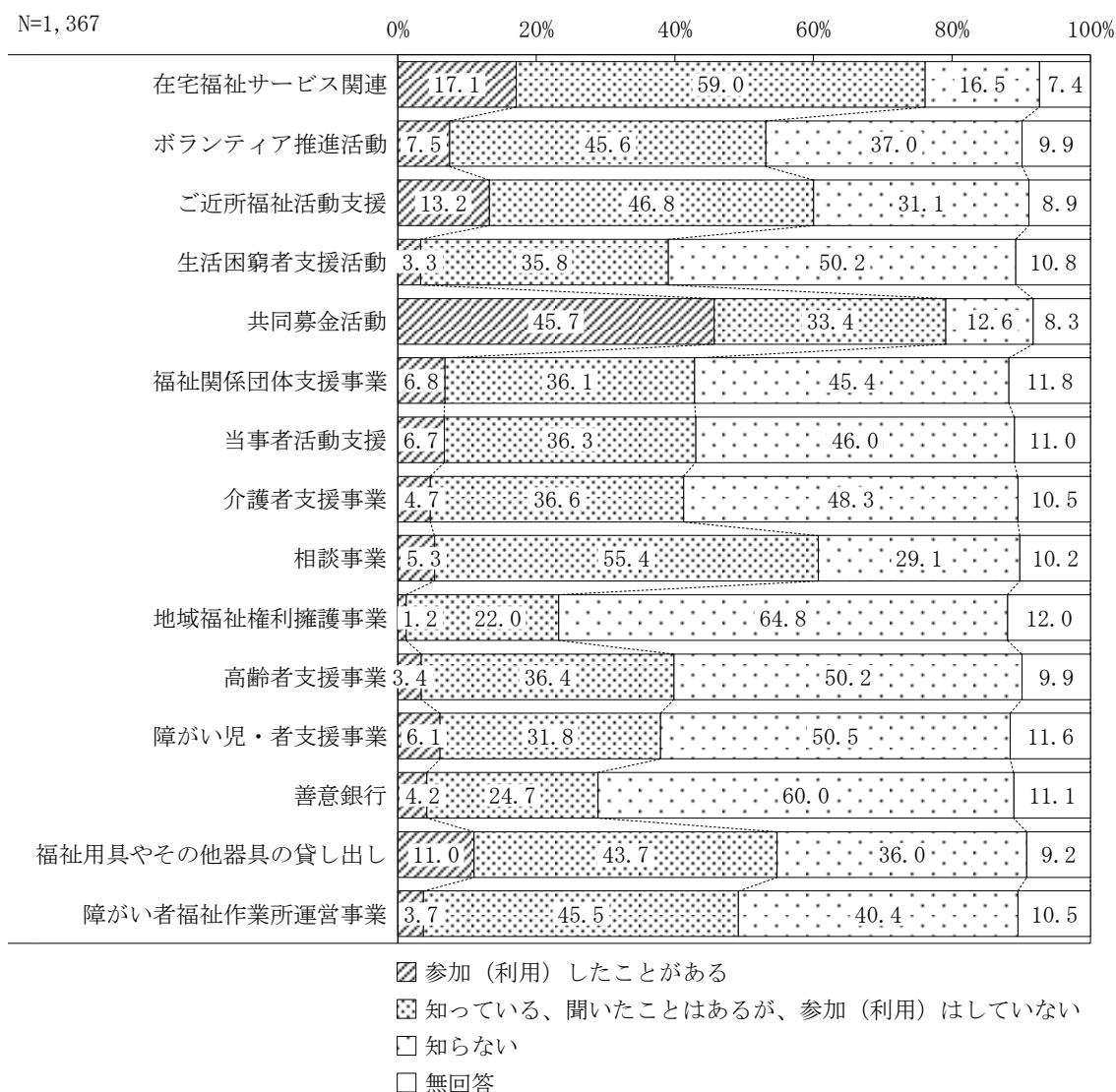
4 社会福祉協議会

(1) 社会福祉協議会事業の認知度

図表54・図表55は、社会福祉協議会が実施している事業や活動の利用（参加）、認知度についてたずねたものです。

参加率（利用率）は、「共同募金活動」が45.7%と最も高くなっています。訪問介護・訪問入浴・訪問看護・通所介護・居宅介護支援事業（ケアマネージャー）などの「在宅福祉サービス関連」、ふれあいいきいきサロン（おたっしや広場）・見守り支えあいネットワークなどの「ご近所福祉活動支援」、「福祉用具やその他器具の貸し出し」が10%台となっており、その他は8%以下です。

図表54 社会福祉協議会事業の認知度

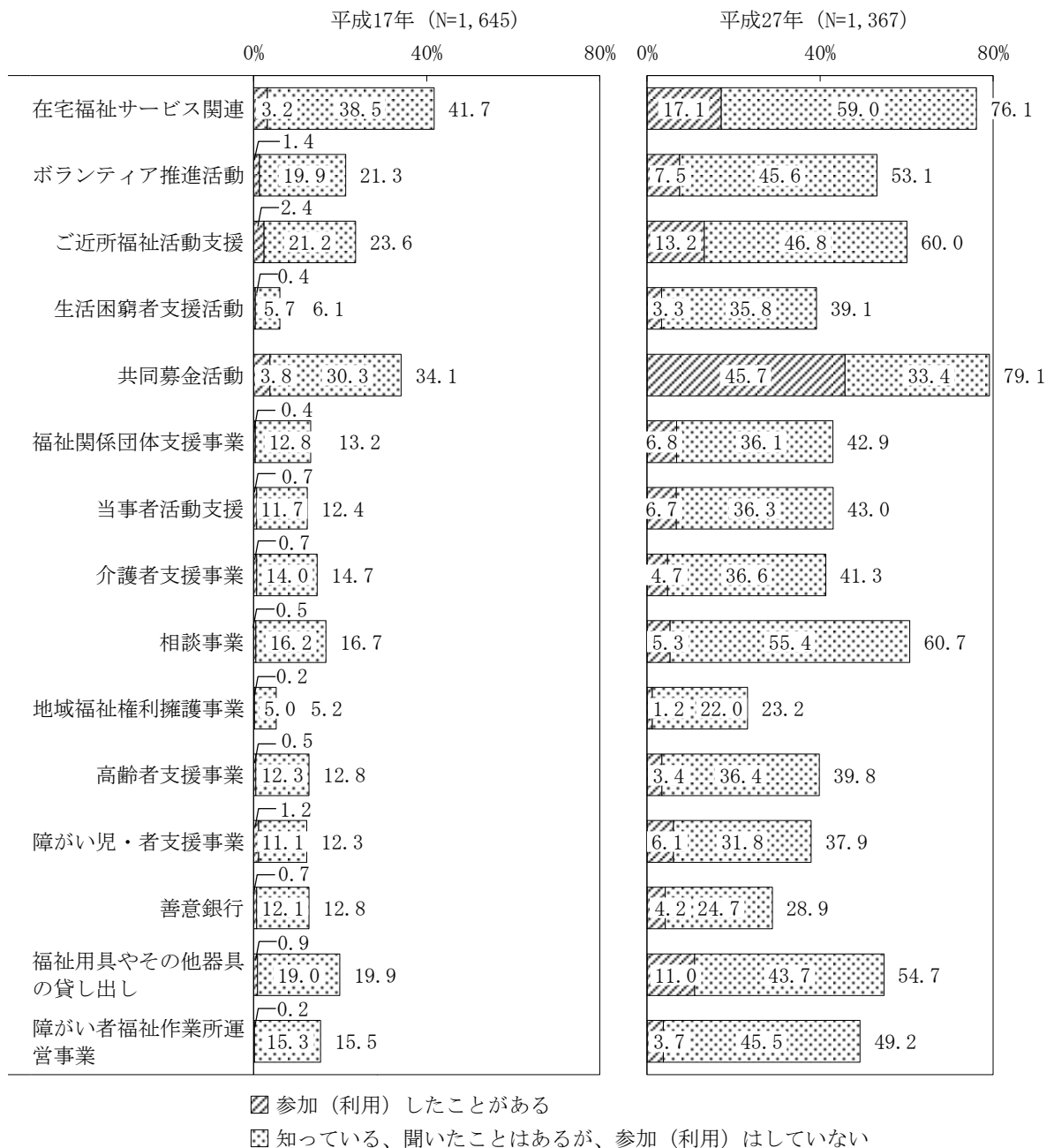


※地域福祉権利擁護事業：認知性高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が充分でない人に対して、福祉サービスの利用に関する相談・助言、必要な手続や利用料の支払いに関する支援等の事業。
 ※善意銀行：「人に役に立つことをしたい」と思う方から『善意のお金』『善意の品物』の寄付をいただき、これらの「善意」を必要に応じて福祉の様々な分野で有効に活用する事業

「参加(利用)したことがある」と「知っている、聞いたことはあるが、参加(利用)はしていない」を合計した認知度は、「共同募金活動」「在宅福祉サービス関連」が75%以上と高く、「ご近所福祉活動支援」、心配ごと相談・法律相談・その他専門相談などの「相談事業」も60%以上です。認知度が低いのは、「地域福祉権利擁護事業」「善意銀行」で、20%台にとどまっています(図表54)。

平成17年調査と比べると、設問は若干異なりますが、全ての項目で大幅に割合が上昇していることから、認知度は上がっていると推察されます(図表55)。

図表55 社会福祉協議会事業の認知度(平成17年との比較)



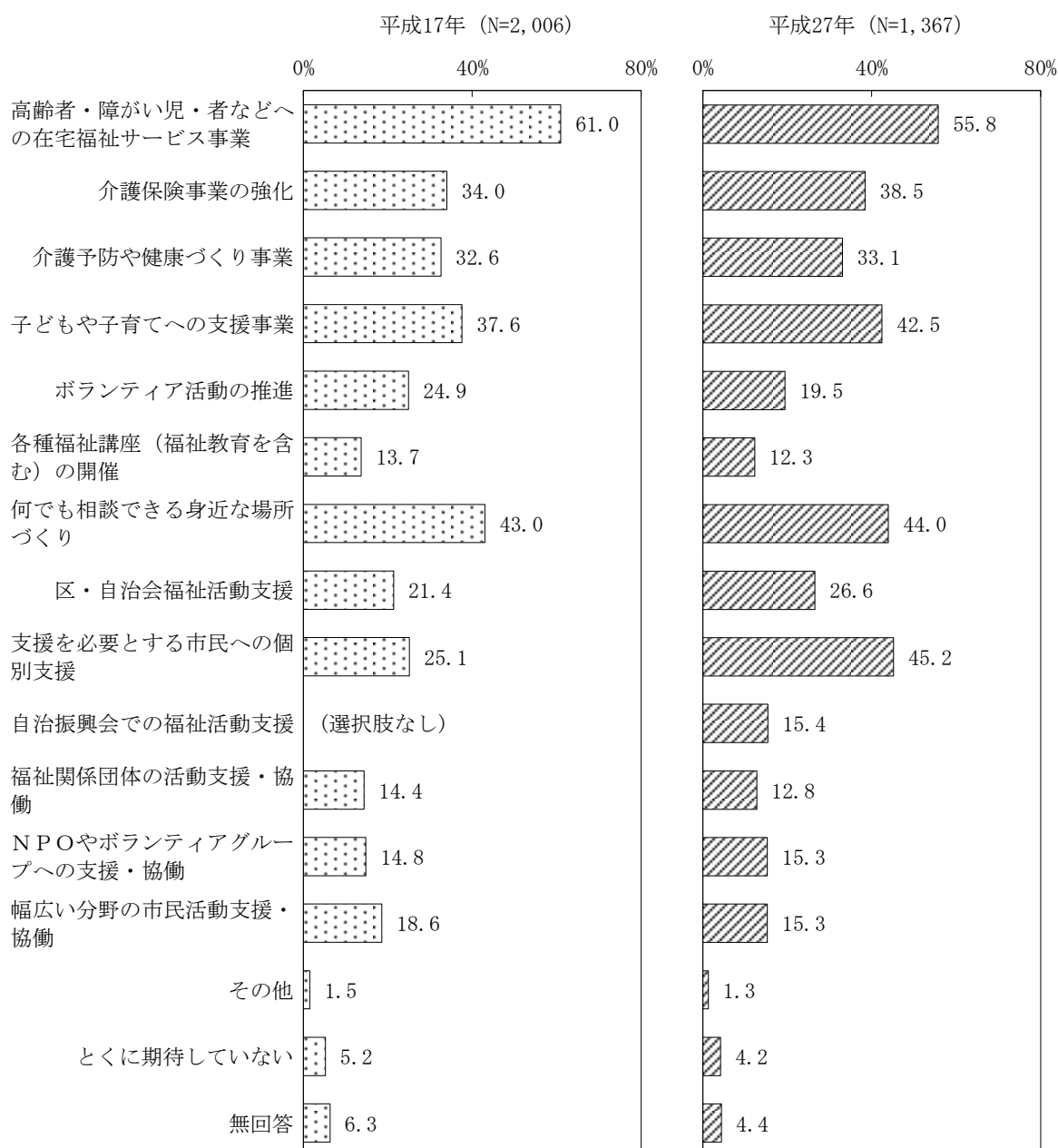
(注) 平成17年は、社会福祉協議会を「知っている」「聞いたことがある」と答えた人に対する割合。

(2) 社会福祉協議会の活動に期待すること

社会福祉協議会の活動に期待することとしては、「高齢者・障がい児・者などへの在宅福祉サービス事業」が55.8%と最も高くなっています。「支援を必要とする市民への個別支援」「何でも相談できる身近な場所づくり」「子どもや子育てへの支援事業」の3項目も40%を上回っています。

平成17年調査と比べると、「支援を必要とする市民への個別支援」が20.1ポイント高くなっています。「区・自治会福祉活動支援」「子どもや子育てへの支援事業」「介護保険事業の強化」も5ポイント前後高くなっています。一方、「ボランティア活動の推進」「高齢者・障がい児・者などへの在宅福祉サービス事業」は約5ポイント低くなっています（図表56）。

図表56 社会福祉協議会の活動に期待すること（複数回答）



属性別にみると、年齢別の40歳未満以外はすべて「高齢者・障がい児・者などへの在宅福祉サービス事業」が最も高くなっています。40歳未満は「子どもや子育てへの支援事業」が67.3%と最も高くなっています（図表57）。

「その他」として、図表58の内容が記載されていました。

図表57 社会福祉協議会の活動に期待すること（属性別、複数回答）

単位：人、他は%

		N	在宅福祉サービス事業 高齢者・障がい児・者などへの	介護保険事業の強化	介護予防や健康づくり事業	子どもや子育てへの支援事業	ボランティア活動の推進	各種福祉講座（福祉教育を含む）の開催	何でも相談できる身近な場所づくり	区・自治会福祉活動支援	支援を必要とする市民への個別支援	自治振興会での福祉活動支援	福祉関係団体の活動支援・協働	NPOやボランティアグループへの支援・協働	幅広い分野の市民活動支援・協働	その他	とくに期待していない	無回答
性別	男性	595	54.8	36.8	30.3	40.8	20.0	10.4	41.0	25.7	43.4	17.3	12.9	16.3	15.3	1.5	5.7	4.0
	女性	749	56.7	40.1	35.5	44.3	19.2	14.0	46.1	26.8	47.1	13.6	12.7	14.7	15.4	1.2	2.9	4.8
年齢別	40歳未満	251	43.8	25.5	22.3	67.3	14.3	11.2	37.5	11.2	37.5	8.0	9.2	11.6	13.1	1.6	6.0	2.8
	40～64歳	519	57.0	44.7	29.7	42.8	20.2	13.7	42.8	22.4	45.3	14.1	13.5	14.8	12.9	1.3	4.2	3.7
	65～74歳	292	55.1	36.3	38.7	30.8	19.2	11.3	43.5	30.8	50.3	15.8	12.0	15.8	17.1	0.7	4.8	5.1
	75歳以上	291	65.6	41.6	42.3	33.3	23.0	12.4	51.5	43.3	46.7	24.4	15.8	18.9	19.2	1.7	1.7	6.2
家族構成別	ひとり	199	50.8	30.2	35.2	29.1	20.6	10.6	47.7	26.1	44.2	13.6	12.1	15.6	16.1	2.5	4.5	6.0
	夫婦だけ	340	62.6	40.3	38.2	36.2	24.1	12.6	47.9	32.1	47.1	20.3	15.6	18.2	17.1	0.9	5.0	4.7
	2世代	577	52.7	38.1	28.6	48.9	15.9	10.6	43.3	21.5	45.1	11.8	10.7	13.2	14.2	0.9	4.2	3.5
	3世代	189	57.7	46.0	36.5	49.7	20.6	18.0	37.0	32.3	45.0	19.0	13.2	15.3	16.4	2.1	1.6	3.7
	その他	49	59.2	36.7	30.6	40.8	18.4	14.3	36.7	26.5	42.9	18.4	18.4	18.4	8.2	2.0	8.2	8.2
地域別	水口	521	56.2	36.1	33.0	45.5	20.3	15.0	42.2	22.6	44.5	15.4	11.7	14.8	15.4	1.9	5.0	4.4
	土山	123	60.2	45.5	35.8	43.1	21.1	15.4	49.6	34.1	47.2	19.5	13.8	17.1	17.9	-	6.5	1.6
	甲賀	176	53.4	40.9	39.2	38.6	20.5	10.2	40.9	33.5	46.0	15.3	13.6	15.3	14.2	0.6	3.4	3.4
	甲南	339	53.4	36.0	30.1	42.5	18.0	9.7	45.7	24.8	42.8	13.9	14.2	13.9	13.9	2.1	2.4	4.7
	信楽	193	58.5	43.5	32.1	39.4	18.7	9.8	44.6	30.1	50.3	16.6	12.4	19.2	17.1	-	4.7	5.2

図表58 社会福祉協議会の活動に期待すること（その他）

- ・働きたくても仕事がなく生活苦になっている高齢者の就労支援
- ・相談できる時間の延長（平日の17時半以降など）
- ・小中学生の社会学習として、介護や障がいへの理解を深める体験学習の取り組み
- ・外国語での説明
- ・健康なひとり暮らし老人のグループホーム
- ・認知度を向上してほしい（社会福祉協議会？初めて聞きました）
- ・市が、市民に負担をかけずに事業を行うこと
- ・「障がい者が多いから支援に力を入れる」のではなく、ひとりでもいたら力を入れてほしい
- ・1～13まですべて実施できればよいが、市の財政・人員の問題もあり難しい
- ・今は関わりがないので期待することもないが、よくやってくださっていると感謝している
- ・学校や保育園への啓発、協働、PR等。若い世代への働きかけの強化